

令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」成果報告書

介護・保育の現場で活躍するためのDX人材開発モデル事業

令和7年2月
学校法人大庭学園 ソーシャルワーク専門学校

目次（1）

- 第1章 令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」成果報告概要
 - 1 事業の趣旨・目的
 - 2 事業に取り組む背景
 - 3 実施体制
 - 4 取組み内容
 - 5 委員会・委員
 - 6 会議等開催実績

- 第2章 令和6年度 取組み内容詳細／調査・研究内容
 - 1 管理職向けDX研修の実施
 - 2 DX人材育成プログラムの実証検証
 - 3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討

- 第3章 令和6年度 取組み内容詳細／打ち合わせ等記録
 - 1 各種打合せ記録
 - 2 出張記録

目次（2）

- 第4章 令和6年度のまとめと次年度への取組み
 - 1 令和6年度のまとめ
 - 2 次年度への取組み

第1章 令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」成果報告概要

- 1 事業の趣旨・目的
- 2 事業に取り組む背景
- 3 実施体制
- 4 取組み内容
 - (1) 管理職向けDX研修の実施
 - (2) DX人材育成プログラムの実証検証
 - (3) プログラムの再編・履修証明プログラムの検討
- 5 委員会・委員
 - (1) 企画推進委員会
 - (2) 専門学校分科会
- 6 会議等開催実績
 - (1) 企画推進委員会・専門学校分科会
 - (2) その他会議・打ち合わせ

1 事業の趣旨・目的

介護や保育分野に従事している方々は、日々の業務で余裕がないという現実があります。そのため、将来的に介護や保育の現場に出ていく学生が、変化の中心となることが必要です。

一般的にDX人材育成というとICTに関わる技術の習得に注目が集まりがちですが、現場で課題を発見し、その課題をどのように解決できるかといった視点を持った人材が存在しなければ、DXによる業務改善や作業の効率化などは困難であると考えます。

そこで本事業での人材開発は、介護や保育の分野を学ぶ学生に、従来の介護や保育の専門技能に加えて『課題を発見する力』や『課題を解決する力』を教育します。さらに課題解決の手段を増やすために、デジタルリテラシー及びスキルも併せて教育します。本事業の教育を受けた人材が中心となって、介護や保育の現場において改善活動を促進し、ユーザー視点のトランスフォーメーションを推進することを目指します。本事業での人材開発では、これらの専門技能やスキルを持つ人材をDX人材と位置付けます。併せて、当該プログラムを終了した学生の受け入れ先となる事業所の長や管理職を対象に、DX人材の活用のための啓もう研修や人事評価セミナーなどを実施して、DX人材が現場で評価され、定着できる仕組みづくりを現場と協働し進めてまいります。

2 事業に取り組む背景（1）

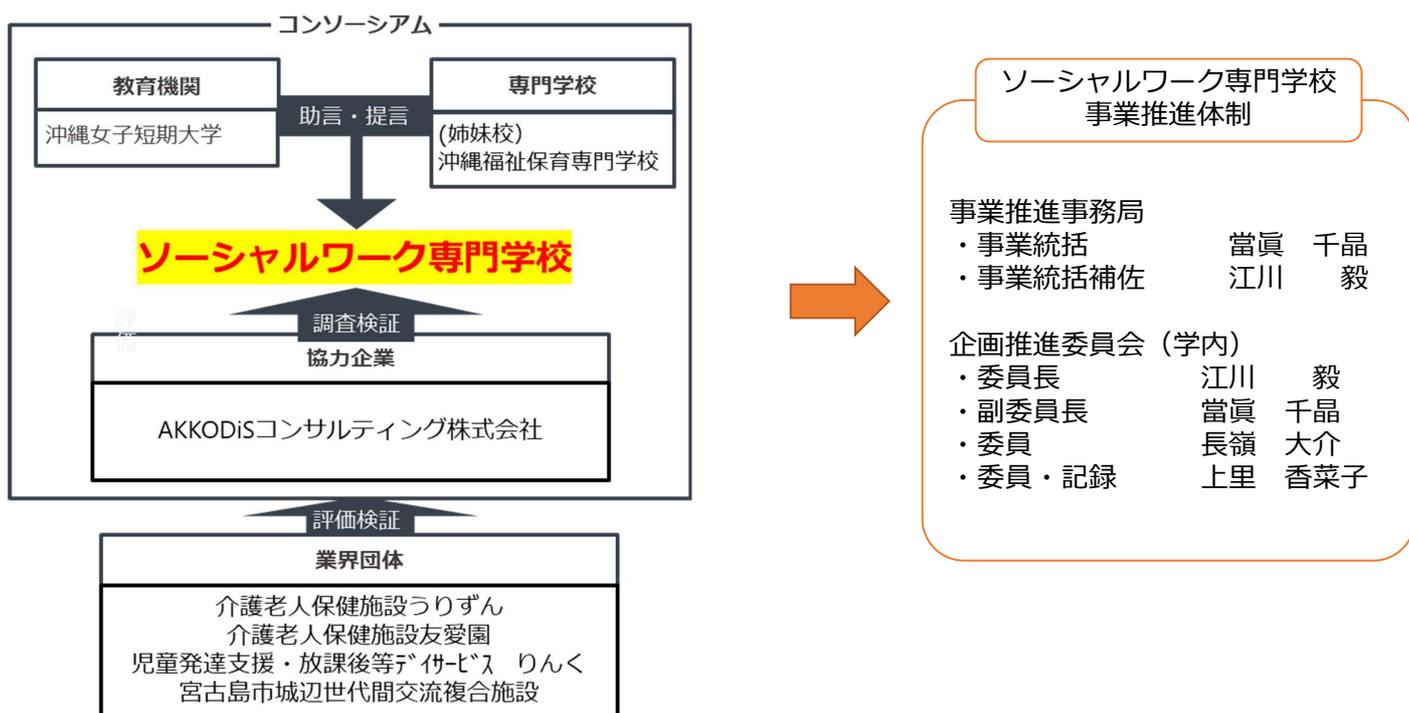
新型コロナウイルス感染拡大後の大学・専門学校等の遠隔授業導入割合は9割を超え、今後も対面とオンライン授業（遠隔授業）を組み合わせ実施していく方針が大勢を締めている。しかし、教育現場では、①教材作成・授業準備負担、②教員のオンライン授業（遠隔授業）への対応力、③ICT環境の整備不足など、遠隔化における課題も浮き彫りになっており、感染症などのパンデミックの再来を前提としたAfterコロナ時代の教育の在り方について変革が求められていく時代背景にあると考えられる。

一方で、沖縄福祉保育専門学校の介護福祉士養成や保育士養成等の教育現場では、実践的な職業訓練を行うというカリキュラムの特色から、遠隔での授業の実施が進んでいないのが実情である。特に介護のカリキュラムは、その多くが手技などを学ぶ演習科目や、施設等への訪問が前提となる実習科目を中心とした科目で構成されている。そのため、多くの教員に、これらの科目の授業品質を落とすことなく遠隔授業に切り替えることは、前例がなく困難であると考えられている。

2 事業に取り組む背景（2）

- ターゲットとなる学習者の分野・職種
 - ・介護分野→介護施設（通所，障害，老人保健施設，デイサービスなど）
 - ・保育分野→こども園，幼稚園を含む保育施設，児童デイ，児童館など
- 学習者が身に着けることを目指す知識・技能
 - ・実際の業務を俯瞰してとらえ、課題収集/解決方法の検討・実行ができる知識
 - ・発見した課題を解決できるICTスキル・技能
- 目指す人材像／成果
 - 【人材像】
 - ・専門技能，ICTスキル，課題発見・解決能力を身に付け，DX推進の中核となる人材
 - 【成果】
 - ・DX推進による福祉現場の業務負担軽減
 - ・福祉人材のスキル向上を図るなど福祉人材のDX推進
 - ・DX推進による成果のサービスの受給者及びサービス依頼者への還元

3 実施体制



4 取組み内容（1）

（1）管理職向けDX研修の実施

① 福祉現場追加視察（現状・意識調査）

本学園のこども園および保育所における現状およびDXに関する管理職の意識について調査を実施いたしました。この調査の結果、各園におけるIT化の取り組み状況には差異があり、デジタル技術に詳しい担当者が不在の場合、システムの機能を十分に活用できず、たとえ管理職が意識を持っていても改善が進まないという現状が明らかになりました。このことから、現場レベルでのDX人材の必要性が一層浮き彫りとなりました。

② 管理職向けDX研修の実施

6月中旬に、福祉現場の管理職を対象としたDX研修を実施いたしました。参加者は約20名で、デジタル技術を活用した業務やサービスの改善方法を学んでいただくことを目的としておりました。参加者からは、「変化の必要性が分かりやすく理解できました。デジタル技術が変化に不可欠であることも分かりました」といったご感想をいただきました。

4 取組み内容（2）

（2）DX人材育成プログラムの実証検証

① 介護・保育を学ぶ学生によるプログラム実証検証

昨年度に作成いたしました1年目のプログラムは、6月より順次開講し、その内容や難易度の実証検証を行いました。また、2年次向けのプログラムに関しましては、10月を目標に開校の準備を進めてまいりました。しかしながら、受講状況や結果を詳しく検証しましたところ、学生の皆様の本来の講義とのスケジュールが合わず、当初想定していた内容での検証が進められない状況となっております。

② スクーリング（対面授業）の検討・開催断念

オンデマンドによるプログラムの受講後、まとめとして対面による研修を実施する予定で準備を進めておりました。しかし、時間の経過に伴い受講継続者が著しく減少したこと、国家資格受験と時期が近かったことなどから、受講希望者が非常に少なくなりました。これらの状況を受け、誠に残念ながら研修開催を断念せざるを得ない結果となりました。

4 取組み内容（3）

（3）プログラムの再編・履修証明プログラムの検討

① 履修証明プログラムに関する調査

学生が受講を継続できなかった理由の一つに、講義科目数や講義時間数が関係していると考えられたため、プログラムの再編を行い、短期間かつ短時間でも学習できるように見直しを行うこととしました。その際に参考にしたのは「履修証明プログラム」です。専門学校での実施例が全国的に少ないため、この実現に向けて調査を行いました。

② 履修証明プログラムの提案・開設準備

県外の大学での実施状況を参考に、沖縄県内の専門学校で実施可能な手法を検討し、既存のプログラムの再編を行い、具体的な提案を経て学内での意思決定をしました。その後、外部への公開方法についても検討し、福祉業界以外の方々にも受講していただけるよう、一部科目の見直しを行うなど、開講に向けた準備を進めております。

5 委員会・委員（1）企画推進委員会

会議名	企画推進委員会
目的・役割	開発を行うDX人材育成プログラムの仕様を固め、開発されたプロトタイププログラムの検証を行う。
検討の具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画及びスケジュールの確認 ・介護・保育現場ヒヤリング（調査）項目の確認 ・本事業のビジョンの策定 ・介護・保育現場で目指すべきDX人材の定義の確認 ・DX人材のプログラムの検討 ・授業シラバス及びコマシラバスの検討 ・次年度事業計画及びスケジュールの確認

	氏名	所属・職名	役割等
1	當眞 千晶	法人事務局・公私連携課長	委員長 学内委員
2	江川 毅	リョウワーク専門学校・シニアスペシャリスト	委員長補佐 学内委員
3	長嶺 大介	リョウワーク専門学校・企画事業課主任	学内委員
4	上里 香菜子	リョウワーク専門学校・企画事業課推進	学内委員
5	恩河 ひとみ	沖縄福祉保育専門学校・ヒューマン介護福祉科・教員	学内委員
6	長嶺 規恵	介護老人保健施設うりずん・職員	外部委員
7	上原 誠	豊見城中央病院通所リハビリテーション・課長	外部委員
8	比嘉 勇太	沖縄女子短期大学・産学連携コーディネーター	外部委員

5 委員会・委員（2）専門学校分科会

会議名	企画推進委員会 専門学校分科会
目的・役割	企画推進委員会に上げる議案の検討及び意見交換
検討の具体的な内容	<p>以下の企画推進委員会の下部組織として検討内容に係る事前・事後の調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画及びスケジュールの確認 ・介護・保育現場ヒヤリング（調査）項目の確認 ・本事業のビジョンの策定 ・介護・保育現場で目指すべきDX人材の定義の確認 ・DX人材のプログラムの検討 ・授業シラバス及びコマシラバスの検討 ・次年度事業計画及びスケジュールの確認

	氏名	所属・職名	役割等
1	江川 毅	リョウワーク専門学校・シニアスペシャリスト	委員長
2	當眞 千晶	法人事務局・公私連携課長	副委員長
3	長嶺 大介	リョウワーク専門学校・企画事業課主任	学内委員
4	上里 香菜子	リョウワーク専門学校・企画事業課推進	学内委員

6 会議等開催実績

(1) 企画推進委員会・専門学校分科会

令和6年度についてはそれぞれの業務の都合から専門学校分科会のみでの開催とし、企画推進委員会としての開催は見送り、関係企業様と個別の打ち合わせや現場ヒヤリングを実施し、事業に反映するなどしました。特に国内外の現場の状況を把握するため委員との意見調整を行うなど試みました。

(2) その他会議・打ち合わせ

関係企業様と議題等の整理、課題・及び検討事項の確認、スケジュール調整などのための打ち合わせを随時実施しました。

これらの打ち合わせは主にオンラインにて実施し、必要に応じて対面でも実施しました。

なお、主な打ち合わせの内容については、「第3章 1 各種打合せ記録」に概要を載せているので、そちらを参照していただきたい。

第2章 令和6年度 取組み内容詳細／調査・研究内容

1 管理職向けDX研修の実施

(1) 福祉現場追加視察（現状・意識調査）

- ① 坂田こども園での現状と課題（2024年4月22日）
- ② 若狭浦保育所での現状と課題（2024年4月22日）
- ③ 若狭こども園での現状と課題（2024年4月23日）
- ④ 小祿こども園での現状と課題（2024年4月23日）
- ⑤ 新栄町こども園での現状と課題（2024年6月25日）
- ⑥ ひばりの保育園【学園グループ外】でのヒヤリング（2024年6月24日）
- ⑦ まとめ

(2) 管理職向けDX研修の実施

- ① 管理職向けの研修の実施内容の検討
- ② 広報・研修参加者の募集
- ③ 研修資料・会場準備
- ④ 研修当日の運営
- ⑤ アンケート結果
- ⑥ まとめ

2 DX人材育成プログラムの実証検証

(1) 介護・保育を学ぶ学生によるプログラム実証検証

- ① 講座開講準備・資料作成
- ② 広報・研修参加者の募集
- ③ 開講・質疑応答対応
- ④ 進捗管理
- ⑤ アンケート結果
- ⑥ まとめ

(2) スクーリング（対面授業）の検討・開催断念

3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討

(1) 履修証明プログラムに関する調査

(2) 履修証明プログラムの提案・開設準備

1 管理職向けDX研修の実施（1）

（1）福祉現場追加視察（現状・意識調査）

管理職向けの研修を実施するに先立ち、文部科学省の事業期間外ではありましたが、本学園の系列こども園および保育所にて追加の聞き取り調査を行いました。

本調査の目的は、各施設の管理職のDXに対する認識を把握し、後日実施予定の管理職向け研修をより効果的な内容とすることにあります。そのため、すべての施設において園長をはじめとする管理職の皆様からお話を伺う形式を取らせていただきました。

また、調査には管理職向け研修で講師を務めていただく株式会社AKKODiS社の講師にも同行していただき、現場のニーズを直接把握するよう努めていただきました。

いずれの施設においても、まず本校から昨年度の実績報告書を基に、これまでの取り組み内容の説明と本年度の計画についての説明を行い、その後、各施設の管理職の皆様からDXに関する認識や各施設でのDXの取り組み状況等についてお伺いいたしました。

1 管理職向けDX研修の実施（2）

系列の施設であるため、コドモン等のシステムは同一のものが導入されていましたが、施設によって使用されている機能が異なっていたり、ほとんどの機能が使用されていなかったりと、かなり状況が異なっていることが分かりました。

一方、いずれの施設の管理職の皆様も、DXが今後重要である点については共通の認識を持たれており、今後どのように取り組むかを検討しているとのことでした。

各施設の詳細は次のとおりです。

1 管理職向けDX研修の実施（3）

① 坂田こども園での現状と課題（2024年4月22日）

- ・ 管理者にはDXについて理解してもらいたい
- ・ コドモンが便利なのを知っている人はどんどん使用するが、知らない人はやりようがない。園によって使えるレベルも違うし園のなかでも使える人と使えない人で違う。
- ・ 職員に各業務にかかる時間を聞き取りしたが人によって差がある。
- ・ 各クラス、フリーも含めて各1台PCを配置。使う時間を増やして興味をもってもらいたいが、現場の職員は子供に向き合う時間を増やしたいのでそのバランスが難しい。
- ・ スキルがある人がサポーターとしてほしい。どういったことができるのか、何がしたいのかを知っていることも大切。
- ・ 今いる職員は今までいたところよりはやりやすいと思う。残業はほとんどなし。コドモンは日誌などの申請時間がわかるため、職員は休日や帰宅後にやらないことを意識できる。DXを進めても最終的には人間関係。



1 管理職向けDX研修の実施（4）

② 若狭浦保育所での現状と課題（2024年4月22日）

- ・ DXを推進することによって何をどのように変えるか、単に業務効率化だけでなく、その結果職員の休憩が取れる、子供に向き合う時間が増えるなど意欲の向上につながるという。
- ・ データがすぐに反映され、保育計画などの即時反映、抽出のしやすさ。最新情報を発信して動向を調べ、対応できるようにしたい。しかし別に対応できる人がいないと難しい。
- ・ 保育士が手掛ける事務作業の整理。システムを入力した際に様々な場所にリンクできるとよい。
- ・ 事務作業は紙ベースやコドモンが混在している状況ですぐに紙をなくすことはできないが少しずつすすめていきたい。
- ・ 経験値で仕事をすると専門性が薄れていってしまう。本人は専門性をもっているかもしれないが他人は知らないの見える化して学生、職員に自分たちの意図を伝えられるようにしたい。



1 管理職向けDX研修の実施（5）

③ 若狭こども園での現状と課題（2024年4月23日）

- ・ 休憩も教材研究の時間も取ってほしいが日誌などの事務作業に時間をとられる。職員がやりたい保育をできるようにしたい。
- ・ 業務時間を短縮したり職員同士の会話ができるようにしたい。変えたいと思いはあるがどうしたらいいかわからない。
- ・ 何がしたいかがわかれば何をしたらいいのかの助言も可能。次に何をするのか、何ができるのかを相談できると次にいける。
- ・ システム活用はできる職員からやっていきその人から広がっていけばいい。ただし、PCスキルが高い人に負担がいかないように管理職が調整する。
- ・ 残業が好きにはなってほしくない。仕事とプライベートを分けてほしいがそれをさせている一番大きい原因が書類になっている。
- ・ こども園同士で共通している業務はあるはずだが共有はしていないか。小禄と若狭では連携している。



1 管理職向けDX研修の実施（6）

④ 小禄こども園での現状と課題（2024年4月23日）

- ・ DXってなにそれ？読み方がデラックスかなと思った。
- ・ 困りごとやどうにかなってほしいこと
- ⇒ やはり記録系に時間がかかる。毎月の行事の準備であまり外に出れない。
- ・ コドモンの活用について
- ⇒ 5月から月案に関してはコドモンを利用。6月から週案も移行予定。
- ・ こども園同士で連携はしているか ⇒ 時々は聞いたりする。新栄町から聞いている。
- ・ 那覇市から週案と月案の様式を指定されていたが勝手に変更していた。那覇市からの周知が今までなかったため今年からコドモンを利用。那覇市はコドモンではなくさくらウェブ？の使用を推奨。
- ・ 自分の園でできないなら学園の他の園に聞くことはできないのか。



1 管理職向けDX研修の実施（7）

⑤ 新栄町こども園での現状と課題（2024年6月25日）

- ・人材育成の課題として、若い先生の育成が必要である。自分で考えることが重要になってくる中で、答えを求める傾向が強い。例えば、怪我をする可能性などについて経験がある先生が気づく中で若手の先生もそういった姿を見て学んでほしい。
 - ・また、行事などにおいても写真や過去の記録を取っており、見ることで動きが想定できるようになっているが、なかなか見て動くことが難しいという課題もある。
 - ・アイデアなどをもっと出してもらえる良いと思うし、ワクワクするようなトランスフォーメーション後の姿になるとよいと思う。
- トランスフォーメーションをするにもアートやデザインなどの視点が必要になってくると思っている。例えば、道端に咲いている花に気付くなどの余裕や視野の広さも大切ではないかと感じている。
- 保育園の先生にはお散歩して、園児が途中で立ち止まるなどし、目的地に着かなかったという人もいる。そんな時には、子供たちが興味を引くものが多かったからよかったなどと思う。
- 雰囲気や空気感などもアイデアを言いやすいようなことにつながると思う。

1 管理職向けDX研修の実施（8）

⑥ ひばりの保育園【学園グループ外】でのヒヤリング（2024年6月24日）

- ・企業型ということもあり、他の園と比べるとDXが意識されている。それでも、トップの方針で、画像や動画を保護者の方に送るといった施策が行われることになった際には職員の抵抗があり、最初は管理者が一人で行っていたが、だんだんとやってみたいという職員も出てきて、今ではそれが当たり前になったという経緯がある。
- ・エクセルの入力など最低限のことはすでにできている。タイピングだけは覚えてもらわなければならないが、フォーマット等が決まっていれば基本的には利用できる。現在は生成 AI などを導入し、文章案などの検討にも利用している。
- ・デジタル化などは使っていないと便利さがわからないので、使っていくことが大切だと思っている。使うことによって便利だと感じれば継続して使う。
- ・企業としてグループ共通の方針を繰り返し伝え、保育士もそれを理解した上で業務にあたっている。業務の効率化には徹底的にこだわっていて、管理者が元SEということもあり、異業種の視点で福祉分野に特化した改善というわけでもないが、その内容は、私たちの目指している方向性と合致している。

1 管理職向けDX研修の実施（9）

⑦ まとめ

グループ外の例ではありますが、ひばり保育園の事例からも、DXによる業務改善を進めるためには、管理職の強いリーダーシップが不可欠であることが分かります。山本五十六の「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。」という言葉のように、改革や改善に対して現場の職員が否定的であることは少なくありません。そのような状況を打開し、職員に積極的に取り組んでもらうためには、まず管理職が自信を持って進める姿勢を示すことが重要であると感じました。DX化が進んでいるひばり保育園でも、当初は職員からの抵抗がありましたが、管理職が率先して取り組む姿を見せることで、徐々に理解者を増やしていったという経緯があります。

管理職がDXを理解していない施設では、このような取り組みが他人任せになり、リーダーシップを発揮することが難しい状況にあることは容易に想像できます。福祉現場でDXを推進するためには、単に現場の職員向けに研修を実施するだけでなく、決定権を持つ管理職に対してDXの重要性や推進に必要なリーダーシップについての研修を行い、管理職層に理解者を増やすことが改めて重要であると考えます。

1 管理職向けDX研修の実施（10）

（2）管理職向けDX研修の実施

年度当初に実施いたしました調査結果を踏まえ、管理職向けの研修開催に向けて、以下の手順で準備を進めてまいりました。本研修は、DX人材育成プログラムを修了した学生の受け入れ先となる施設の長や管理職の方々に対し、学生がDX人材として現場で評価され、長期的に定着できる仕組みを現場と協働して進めることを目的として計画しております。

- ① 管理職向けの研修の実施内容の検討
- ② 広報・研修参加者の募集
- ③ 研修資料・会場準備
- ④ 研修当日の運営
- ⑤ アンケート結果
- ⑥ まとめ

1 管理職向けDX研修の実施（11）

- ① 管理職向けの研修の実施内容の検討

研修の目的

- DXとはデジタル技術を活用して業務やサービスを変革することです。
- DXを推進するには、デジタル技術に詳しく、新しいアイデアを出せる人材が必要です。
- この研修では、DX人材と呼ばれる人材の育て方や使い方、評価の仕方を学びます。

研修の内容

- 福祉現場の課題やニーズを明確にする方法
- DX人材に自由に発想や提案を行わせる方法
- DX人材に目標や期限、予算、役割などを明確に伝える方法
- DX人材の成果や貢献を評価し、フィードバックや報酬を与える方法
- 事例紹介やグループワークもあります

1 管理職向けDX研修の実施（12）

昨年度および今年度に実施した調査結果を踏まえ、研修の実施時期および内容を検討し、以下のとおり実施することといたしました。今回は、先の計画に基づき、管理職向けのDX研修を単独で実施するのではなく、他のテーマと組み合わせることで、集客効果を高める工夫を施すことといたしました。

- 【目的】 沖縄県内の介護施設、および介護事業所等に勤める現任の介護職に対して、介護の現場で必要となる知識や技術を身につけるための研修を、階層別（初任者職員・中堅職員・管理職）の研修をテーマ毎に行い、介護職員の資質の向上を図ることを目的とする。
- 【対象者】 現任の介護職員(管理職員) ※資格の有無は問わない
(5年以上の介護従事者及び現場リーダー職、または管理職を目指す方)
- 【募集期間】 令和6年5月10日(金)～5月31日(金)
※定員(30名)に達し次第締め切り
- 【研修日程】 令和6年6月13日(木)・14日(金)
- 【受講料】 無料



※介護に加え保育施設の管理職も後日追加募集しています。

1 管理職向けDX研修の実施（13）

2日間のタイムスケジュール

DX講座は2日目に実施

《管理職員向け 1日目》 ～おおむね5年以上の現場リーダー職及び管理者～

No.	研修日時	コース名	研修内容	定員
1 日 目	6月13日(木) 9:00～12:00	アンガーマネジメント	◇怒りの正体と自身の怒りの傾向 ◇部下への上手な叱り方	30名
	講師	合同会社 Happy Joy 代表社員 幸喜穂乃		
	6月13日(木) 13:00～16:00	部下と共に成長するコミュニケーション	◇部下とのより良いコミュニケーションとは ◇ロールプレイ(演習) ◇その他	30名
	講師	(有)ケアセンター きらめき 代表取締役会長 渡慶次 憲		

《管理職員向け 2日目》

No.	研修日時	コース名	研修内容	定員
2 日 目	6月14日(金) 9:00～12:00	介護におけるDXの推進Ⅰ	◇DXとは? ◇福祉現場におけるDX人材の活用	30名
	講師	アコーディスコンサルティング株式会社 アカデミー本部地方創生部 玉川 博之		
	6月14日(金) 13:00～16:00	介護におけるDXの推進Ⅱ	◇演習(課題発見・解決の方法) ◇その他	30名
	講師	アコーディスコンサルティング株式会社 アカデミー本部地方創生部 玉川 博之		

1 管理職向けDX研修の実施（14）

研修計画の詳細は次のとおりです。

研修タイムスケジュール（AM）

時間	概要	その他
8:30～	現地訪問	PC等の準備
9:00～	挨拶・諸注意・進め方等・自己紹介	オンライン接続の状況などを確認
9:15～	グループ自己紹介	グループのメンバーの自己紹介を行う
9:30～	【講義】 DXとは何か？	解説・問いかけに対するグループディスカッションを実施
10:00～	【講義・デモンストレーション】 デジタル活用の可能性	デジタル活用の事例やデモンストレーションを用いて介護・保育の現場でも活用できそうな事例を紹介
10:30～	休憩	10分間の休憩
10:40～	【グループワーク】 トランスフォーメーション後の姿を考える	グループワークを基に身近な例を基に課題解決と未来創造の違いを体験する ※管理職の役割として、方針やビジョン作成を中心に解説
11:30～	各チームの発表	1チーム3分程度 5チーム想定（バッファ含む）
11:55～	午前の締めあいさつ	
12:00～	お昼休憩	1時間程度を想定

1 管理職向けDX研修の実施（15）

研修タイムスケジュール（PM）

時間	概要	その他
13:00～	【グループワーク】 現場のトランスフォーメーション後の姿を考える	現場としてどう変化していきたいかをグループで意見を出していく ※現場が各々違う中で、他の人の意見も聞くことで、トランスフォーメーション後の姿を多様に考える ※このタイミングでは、サービス目線のトランスフォーメーションを考える ※講師が各テーブルを回り個別にコメントしながらより深く考えられるようにしていく
13:30～	【グループワーク】 トランスフォーメーションを実現するために必要な職員の変化を考える	職員のトランスフォーメーション後の姿を考える ※現場が各々違う中で、他の人の意見も聞くことで、トランスフォーメーション後の姿を多様に考える ※講師が各テーブルを回り個別にコメントしながらより深く考えられるようにしていく
14:00～	【グループワーク】 職員の変化を実現するために必要なものは何かを考える	実現手段を考えていくことで、何が必要か、いくらかかるかなどを考えるための情報を整理する ※講師が各テーブルを回り個別にコメントしながらより深く考えられるようにしていく
14:30～	休憩	
14:40～	各チームの発表を行う	1チーム5分程度 5チーム想定（バッファ含む）
15:10～	【講義】 トランスフォーメーションの評価と実現できる人財の価値	成果の見え方や実施する人材がいかに貴重かを解説。グループワークで行ったことを実際に進めていく人材が現場には必要であり、その方々を評価することの重要性を解説。 ※管理職と非管理職の役割の違いなどを説明 ※評価では現場の変化をどうとらえるかを理解してもらう ※適切な評価が大切なことを説明。過度な評価をすることではないことを重視
15:30～	質疑応答、アンケート回答、アナウンス等	多少のバッファとして時間を活用する可能性有
16:00	終了	
17:00	片付け完了	16:00～17:00の間で質問等があれば適時受付

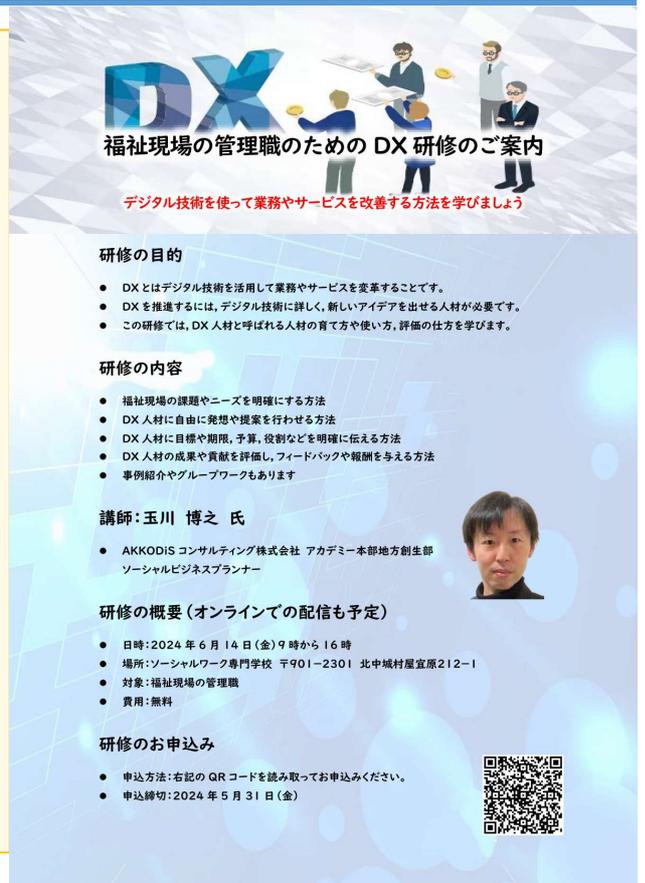
1 管理職向けDX研修の実施（16）

② 広報・研修参加者の募集

沖縄県内の事業所にFAXを送付するなど、広く参加者を募るために右記のチラシを作成いたしました。特にヒアリング等にご協力いただいた施設には、担当者に電話やメールで直接ご案内するなど、積極的な広報活動を行いました。

その結果、本校の教員1名および系列保育施設からの3名を含む、計20名の申し込みをいただきました。

なお、1名は石垣島の系列こども園の園長で、当日はオンラインでの参加を希望されており、グループワークの実施方法等についての検討が必要となりました。また、講師には自治体向け研修実績のあるAKKODiSコンサルティング社の玉川博之氏にご担当いただくことといたしました。



DX
福祉現場の管理職のための DX 研修のご案内
デジタル技術を使って業務やサービスを改善する方法を学びましょう

研修の目的

- DXとはデジタル技術を活用して業務やサービスを革新することです。
- DXを推進するには、デジタル技術に詳しく、新しいアイデアを出せる人材が必要です。
- この研修では、DX人材と呼ばれる人材の育て方や使い方、評価の仕方を学びます。

研修の内容

- 福祉現場の課題やニーズを明確にする方法
- DX人材に自由に発想や提案を行わせる方法
- DX人材に目標や期限、予算、役割などを明確に伝える方法
- DX人材の成果や貢献を評価し、フィードバックや報酬を与える方法
- 事例紹介やグループワークもあります

講師：玉川 博之 氏

- AKKODiS コンサルティング株式会社 アカデミー本部地方創生部 ソーシャルビジネスプランナー

研修の概要（オンラインでの配信も予定）

- 日時：2024年6月14日（金）9時から16時
- 場所：ソーシャルワーク専門学校 〒901-2301 北中城村屋宜原212-1
- 対象：福祉現場の管理職
- 費用：無料

研修のお申込み

- 申込方法：右記のQRコードを読み取ってお申込みください。
- 申込締切：2024年5月31日（金）

1 管理職向けDX研修の実施（17）

講師紹介

AKKODiS



玉川 博之（Tamagata Hiroyuki）

AKKODiSコンサルティング株式会社 ソーシャルビジネスプランナー

地域を対象とした活性化を目的とした、デジタル化・DX化の支援を行っています。デジタルを活用した業務プロセスの見直しや課題の整理、目指すものとしてのビジョンの立案などに取り組んでいます。また、関わる人材を育成するための授業作成、及び講師を行っています。デジタルに不慣れな方でも分かりやすい授業内容にすることで、多くの方がデジタルと関わりを持てるように心がけています。また、デジタルを安全に活用するために、情報セキュリティにも力を入れています。利便性と安全性のバランスを取ることを心掛けています。

主な職務経歴 / 講師実績

職務経歴	年月	内容
	2009.04	顧客先に常駐し、電話網の障害対応を実施
	2011.10	ネットワーク・セキュリティ機器の設計・構築
	2016.04	社内研修講師 および 研修企画
	2020.04	地域共創推進に向けた取り組みを実施
講師実績	2022.4	専門学校向けネットワーク・セキュリティ入門研修（15人）
	2024.7	東京都セキュリティ支援事業専任講師（30名）
	2022.10	自動車メーカー向けセキュリティ研修（10名）
	2023.7	自治体向けDX研修講師（25名）
	2023.10	教職員向けDX・セキュリティ研修講師（20名）
	2023.11	自治体向けセキュリティ研修講師（15名）
	2024.1	子供向けデジタル体験会講師（15名）
	2024.6	管理職のためのDXセミナー構成（20名）

対応領域 / 保有資格 / 所属団体等

対応領域（セキュリティ）	情報セキュリティ / サイバーセキュリティ / SOC入門講座
	CTF / セキュリティマネジメント / IR講座
対応領域（ネットワーク）	ネットワーク入門 / ルーティング / スwitチング / FW
対応領域（DX）	DX入門
保有資格	情報処理安全確保支援士（登録番号：008189）
	Certified Ethical Hacker v10
	Computer Network Defense v1
所属団体	日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）
	JNSA市場調査ワーキンググループサブリーダー
	日本サイバーセキュリティ人材キャリア支援協会（JTAG）
	キャリアデザインワーキンググループリーダー、企画推進委員長
	東京慈恵学園 ホワイトハッカーコース セキュリティ講師

1 管理職向けDX研修の実施（18）

③ 研修資料・会場準備

研修資料につきましては、配布用もご用意し、各自で持ち帰り振り返りができるようにいたしました。

特に運営側が伝えたいことや意識してほしい部分については整理し、研修後に資料をご覧くださいだけでも意図が伝わるよう、資料作成に際して講師に工夫を依頼いたしました。

本研修はオンラインでの参加が予定されていたため、グループワークを円滑に進めるために必要な機材を検討し、準備いたしました。

DXを進めていくために何が必要か？

何のためにDXを進めよう？ → トランスフォーメーション後の姿を

DXを進めていくために何が必要か？

どうやってDXを進める？ → 計画立てて、目標を持って進めます。

DXを進めていくために何が必要か？

DXが進んでいるか知るためには？ → 定期的に変化したことを把握し、職員に共有していく

1. 時間が短縮された
2. トランスフォーメーション後の姿を

□ DXについて知りましょう

□ DXを進めるために、何が必要かを体験しましょう

□ DXを進めるために、協力できるようにしましょう

1 管理職向けDX研修の実施（19）

④ 研修当日の運営

オンライン参加者とのグループワーク



グループ内での意見・情報交換に重点



1 管理職向けDX研修の実施（20）

④ 研修当日の運営

グループワークを中心とした内容で、参加者同士の意見交換や情報共有が活発に行われました。しかし、オンライン参加者が含まれるグループでは、以下のような問題が発生しました。

- ・ 周囲が居酒屋のように騒がしくなると、集音マイクが適切に機能しない
- ・ そのため、オンライン参加者が対面の会話を聞き取れない
- ・ また、オンライン参加者の声も聞き取りにくい

結果として、当初はグループワークがスムーズに進行しませんでしたでしたが、マイクやスピーカーの種類を変更するなどの対応を行った結果、オンライン参加者とのコミュニケーションが円滑に行えるようになり、グループワークも円滑に進められるようになりました。

マイクの変更 : 全指向性 ⇒ 単一指向性 (TOWA D1210)

スピーカの変更 : パソコン ⇒ TOWA WA-2800



1 管理職向けDX研修の実施（21）

参加者は右表の通りで、介護施設からの参加に加えて、系列のこども園からもご参加いただきました。研修内容は福祉現場という視点で実施したため、介護や保育といった分野の違いに戸惑うことなく進めることができました。また、施設に共通する課題もあり、アンケート結果にもあるように、参考になったとのご意見を多くいただきました。

本研修では、これまでDXをどのように進めればよいかかわからず、手を付けていない施設の管理職の皆様に対して、何をやるかの前に、DX後の姿をどのようにイメージするかを強く意識していただくことを目的としていました。講師は自身の説明に加え、グループワークでの話し合いでも、うまく話の流れを誘導していたと感じました。

所属
デイサービスかすり/有料老人ホームひまわり
社会福祉法人彩生会
株式会社 忠宗
なかくすく日の出園
デイサービスみどり町
沖縄リハビリテーションセンター病院
若狭こども園
デイサービスとことん
新栄町こども園 ※オンライン参加
社会福祉法人千尋会 嬉の里
愛聖グループホームベガサス
あまごころ
介護老人保健施設嬉野の園
坂田こども園
管理者
介護老人保健施設 亀の里
愛聖小規模多機能型居宅介護オリオン
デイサービス
ソーシャルワーク専門学校
社会福祉法人麗峰会 グループホーム沖縄一条園

1 管理職向けDX研修の実施（22）

⑤ アンケート結果

本研修に参加するにあたりどのような期待を持って参加しましたか？	満足度を教えてください。	満足度の理由をおしえてください。
現場で使える方法があるか知れたかった	8	グループでの話し合いができたので、良かった
DXの理解	8	いろんな施設の事情も聞けたから
DXの使い方	7	導入方法や他の参加者との意見交換
知識の習得。新しい情報共有。	8	自己の引き出しが増えました。
会社をよくしていくには？職員をどう変えていけるのか等、思いながら参加しました。DXに関しては思っていたものは全く違っていたけど、逆に勉強になり、現場でも実践できたと感じました。	10	現場を離れて2日間濃く勉強ができたと思います。
DX事態初目だったので、少し緊張だったのですが、初めての事を知る事に期待してきました。	10	お話がわかりやすい。 自分達のペースでわかりやすく説明していただけたので満足です。
デジタル化することで事務作業の軽減	8	ワークをやったことで理解しやすかった 介護、保育の現場の声を聞く良い機会になった
人材不足に悩む介護業界で、DXによって悩みを解決しつつさらなる向上したサービス提供に繋ぐことが出来れば	8	実際のツール等の紹介や使用方法などが紹介されと思ったが、そうでなかったのが残念でした。ただ、グループワークを行ったことで何が重要かというのが分かったので仕事に活かすことができると思うと概ね満足です。
DXとは何か...どのようにすすめていよいか何に気を付けると良いかなど、知りたいと思って参加しました。	8	とても良かったです。 ただ、グループワーク前半で、音が聞こえずメンバーの名前もわからないままだったことが、残念でしたが、ワークについては話ができて良かった。
DXとはなんなのか。何をみなさんが取り組んでいるのか知れたかった。	8	他業種の話、他施設の話、同業者の価値観を聞くことができ、有意義な情報交換ができた。
当、施設では、ワズマンを導入していますが、入力方法や、操作に関して、不十分な、職員もいるので、他、施設の方々は、どうしているのか情報交換ができた。	8	DXを導入することにより、質の向上、ケアの向上、業務改善に、とても有効だと思いました。ありがとうございました♪
職場のデジタル化に浸透できればなと思って参加しました。	10	分かりやすく、楽しく受講できました。
DXの必要性。部下に必要性が説明でき、使えるようにできる。DXどう現場に生かす。	10	変化の必要性が分かりやすく、さらに理解できました。変化にはデジタルの必要性も分かりました。
DXについて、もっと話を聞きたい知りたい	8	実践にもっと結びつく具体的な話を聞けると思いました。
DXとは何か。業務遂行する中で取り入れられるものがあれば関心を持って参加しました。	6	現場とリンクしながらどんな事があるか。 今までやり進めてきたこともあり、新たな課題と一緒にデジタル化が得意なスタッフがいない為、せっかく講義うけたが上司との相談から自分が不得意分野でネガティブになっている
DX推進という事もあり、デジタル化の話について期待していました。	7	DXの考え方が、デジタル化のイメージが強かったのと、変化の実現に向けての目標とビジョンを考えて行く大切さを学べたので良かったです。
職員へのやる気上げる為のスキルUPの為(聞き方や、話し方、伝え方等)や、管理者としての考え方。	10	全てが勉強になり、自分自身の考え方に変化がありました。
良いきっかけになりました	8	今後のすすめ方のヒントになったと思います
DXについての理解を深めたいと思参加しました	9	色々な情報交換やDXの可能性について学ぶ事が出来て良かったです。
DXと言う言葉は聴いたことがあったので、どういった内容なのか？人材不足等に対して、DXが役に立つのか習いたく研修に参加しました	10	機器の営業(ソフトウェアのオススメなど)かと思いながら参加したのですが、デジタルだけでなく、業務の変革の仕方、取り組み方や留意点等をとても丁寧に教えて頂きました。 グループワークでも、良い話し合いが行えたのも、先生が丁寧に分かりやすく進行して頂いたおかげです。ありがとうございました。

© AKKODIS 2024. この資料は関係者限りの機密の資料であり、Adecco Groupに無断での使用・開示を禁じます

1 管理職向けDX研修の実施（23）

アンケート回答結果

AKKODIS

本日の研修で印象に残った内容があれば教えてください。（一部抜粋）
チャットGPがあるのを知った。
生活をあらゆる面でより良い方向に変化させることが大事だとゆうこと。
DXのトランスフォーメーションが印象に残った。よくしていくために変化をどうかけていくか？考えさせられる内容でした。
DXを導入したからと言って決して良くなるわけではなく、スタッフ一人一人が理解して活用しなければならぬ。
同じ福祉業界でも、ICT化が進んでいる職場と進んでない職場では、業務内容に差がでていると感じました。（介護施設でも、保育園等でも）
グループ内の他職の話も聞けて、刺激になりました。（人事評価が進んでいる職場の話が、とても興味深かったです。
グループワークでデータとしてまとめ、見える化することで家族様とのコミュニケーションに使えるのではないかと。
DXを進める事で、利用者の皆さん、ご家族の皆さんの生活がより良い方向に変化していく、デジタルの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。
希望を聞く。変化を考え、描く
利用者や家族と職員の笑顔の為に少しでも改善の一步として役立てていきたいと思いました。
変化の姿に必要な考え方が整理できた。
DX。難しかったが、変化後が、想像できて、職員間で取り組みやすいと、思いました。
dx後の理想とその前の準備
チャットGPTも使い方によって、便利だと思いました

本日の研修の満足度

平均 8.45

NPSスコア



本日の研修で印象に残った内容のテキストキーワード

6回答者 (35%) の質問に 変化 回答しました。

トランスフォーメーション

準備 理想 だとうちこ ICT化が進んでいる職場
職員間 変化 dx後 姿 進化 使い方 印象
家族 変化する デジタル 職員 チャットGP
チャットGPT 必要な考え方

© AKKODIS 2024. この資料は関係者限りの機密の資料であり、Adecco Groupに無断での使用・開示を禁じます

1 管理職向けDX研修の実施（24）

アンケート回答結果

DXを進めるにあたってどのような支援があればうれしいですか？

トランスフォーメーションを実現するために障壁となっていること、なりそうなことは何ですか？

回答	
人がいればできることが増えるから	費用対効果を考える為
導入出来れば使いがなしたいから。	安全に進めたいので。
使い方を知らないに進まない	今現在の自身のスキル不足
現場にいる職員にも理解度を深めてもらい取り組みたい。	
導入する企業側が理解してこそ、必要なDXが行われると思います。	
デジタルに対するネガティブな気持ちを少しでも無くしたい	
デジタルに弱い職場で、右も左も分からない状態なので詳しい人から教わりたい。	
DXと言われても、わからない人が多いのでDXと時代の流れを知ることが必要だと感じたから。	
人材不足に困っているから。従業員への機器の説明が難しい。	
お金よりモノ、人に対する取り組みが必要と思います。	
新しく、タブレットやアプリなどの立ち上げや導入につながるかもしれない為	
新しい取り組みに向け準備してる段階なので、目標整理していきたいです。	
現場が、忙しいわりには、効率が悪。他事業所では、すでにデジタル化が進んでいるところもあり驚いた。今日学んだDXの勉強会を行い理解度、認知度をあげていきたい。	
DXについて、本日の研修である程度理解したつもりですが、自施設で現場職員へ説明するにはまだまだ自信は無く、デジタルの活用の仕方、展開等を支援していただけたら、相談できる環境があれば助かります。	

回答	
会社の方針や職員間での意識統一	
一人一人の考え方	
人材	
環境、自然	
職員の前向きに取り組む姿勢がどのくらい作れるのかが気になるところ。	
スタッフのやる気？私がかします。	
予算。コミュニケーションの場を設ける時間の無さ	
予算と順応性	
職員のモチベーションと、知識、それを支援する環境	
変化を恐る考え方。	
認知度	
授業員の協力	
上司、予算。	
時間とお金	
まずは、一緒に取り組んでくれる人材や共感してくれる同僚が必要	
職員、利用者、家族の理解	
実現化に繋がれば良いが、無理難題もあるので、課題の選択が、難しくならないか心配。	
職員の理解（現状維持への希望、新しい事への不満等）、職員の高齢	
新しい事をする時の反対意見など。一緒に取り組める仲間が必要だと思う	
取り組む職員や関係者への理解。説明など上手に行えるか不安。	



© AKKODIS 2024. この資料は関係者限りの機密の資料であり、Adacco Groupに無断での使用・開示を禁じます

1 管理職向けDX研修の実施（25）

アンケート回答結果

本事業で育成するDX人材があなたが働いている職場に着任した場合、活躍できると思いますか？	
評価	その理由を教えてください。
5	現時点では、なんともいえない
7	持っている人がいないし、知識がないから
8	情報やデジタル化で業務削減やコストダウンが出来そう
6	やってみないとわからないと思う。
10	新しいことを率先して行うことで空気が変わり、マンネリ化を防げたり、同じ方向に向いてくれる方も増えそう。
10	DX人材の方がもっとわかりやすくDXの良さや、活用方法を説明して理解していただけたらと思っています。
10	コドモンの活用で活躍できる
7	小規模なので、兼務する必要がある
6	タイミングと着任体制にもよりますが、環境が整うと活躍できると思います。
10	知識がある人がいることで、積極的に施設職員がDXを取り入れていけるのではないかと。
6	理解度では、ありますが、役割分担する
5	現状認識では難しい、でも変化させていきたい。
10	教え方が良い。
9	職員のモチベーション
3	デジタルにうとく、日々の書類作成に時間をとっているため
5	まだイメージがないので難しいです。
10	今現在、必要業務以外残業ゼロを目指している。また、業務改革も行っている最中である。
8	2度手間が減らせる
10	周りを巻き込みながらチャレンジしていけると思う
8	とても良い取り組みだと思いますが、DXの理解が浸透しておらず、知識だけでは心配。

© AKKODIS 2024. この資料は関係者限りの機密の資料であり、Adacco Groupに無断での使用・開示を禁じます

1 管理職向けDX研修の実施（26）

- ・参加者の多くが研修に満足しているという結果でした。特に、グループワークで他の方の話を聞き、進んでいる施設の事例や各種取り組みが参考になったという意見が多くみられました。
- ・研修で印象に残った点として、一番多く回答に書かれた言葉が『変化』という言葉でした。デジタルトランスフォーメーションとして、変化に目を向けるという研修で伝えたかった点に意識していただけた結果と考えています。
- ・DXにあたっての支援について人材・システムや機器の操作・理解度が上位となりました。反面予算という回答は低く、予算をかけて何か取り組むよりも、理解度を上げつつ、自分たちが持っているものを活用していくことを考えていると想定されます。
- ・トランスフォーメーションを実現するための障壁としては、『理解度』に関するキーワードを上げる人が多かった。現場の職員がDXを推進していけるように意識改革をしていく必要があると考えます。

1 管理職向けDX研修の実施（27）

・本事業で育成する人材が活躍できるかという質問については、平均 7.65 であり、NPS における推奨者 8 人、反対者 7 人という結果でした。

（消極的 5 人）研修最後に育成カリキュラムを見せての説明でありましたが、研修参加者の半数以上の方は活躍できるであろうと回答していることが窺えます。また、反対者の回答理由として、自身の現場の実情に合わせての回答や説明不足を理由にする方も多くありました。

本事業の内容の理解が深まれば、育成する人材の価値や育成自体の意義をご理解いただけると想定しています。

1 管理職向けDX研修の実施（28）

⑥ まとめ

当日の参加者の声やアンケートから、福祉現場におけるDXの必要性が認識されていることが明らかになりました。しかしながら、DXの必要性は理解していても、どのように進めればよいのか、誰が担当すべきか、などの点で悩み、管理職が取り組みを躊躇し、後回しにしてしまうという悪循環が見受けられました。ある施設からは、DX人材をエンジニアと考えており、研修などの案内にもほとんど目を通していなかったという話も聞かれました。このような認識のズレを避けるためにも、まずはDXとは何か、それによりどのような効果が期待できるのかを丁寧に説明することが重要であると理解しました。

同時に、他の施設での事例やその効果を示すことにより、具体的なイメージを持っていただくことも重要です。その上で、DX人材とは単にIT機器を操作する人ではなく、他者とコミュニケーションを図り、現場の課題に気づき、それを解決する力を持つ人であることをご理解いただければ、具体的な施策への第一歩を踏み出すきっかけになると確信しております。

残る課題は人材不足の中で、どのように人材を確保し、育成するかという点です。大企業とは異なり、労力、時間、金銭面での対応が難しいため、私たちにとっても今後DX研修を実施する上で検討が必要な課題の一つと言えます。

2 DX人材育成プログラムの実証検証（1）

（1）介護・保育を学ぶ学生によるプログラム実証検証

昨年度に作成いたしました1年目のプログラムは、6月より順次開講し、その内容や難易度の実証検証を行いました。また、2年次向けのプログラムに関しましては、10月を目標に開講の準備を進めてまいりました。

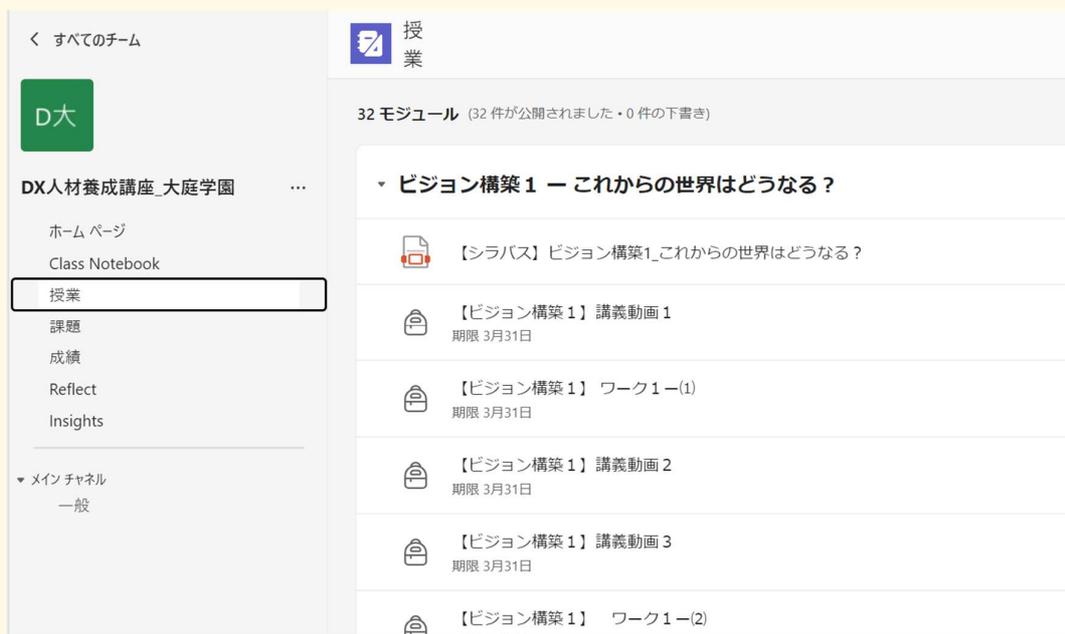
具体的には以下の手順で準備を進めてまいりました。

- ① 講座開講準備・資料作成
- ② 広報・研修参加者の募集
- ③ 開講・質疑応答対応
- ④ 進捗管理
- ⑤ アンケート結果
- ⑥ まとめ

2 DX人材育成プログラムの実証検証（2）

① 講座開講準備・資料作成

昨年度より継続して制作を進めてまいりました1年次向けプログラムを、6月から学生向けに開始できるように、プラットフォームとなるTeamsの整備を行いました。



2 DX人材育成プログラムの実証検証（3）

併せて、受講者向けのマニュアルを作成するなど、円滑に受講をスタートできるように資料の準備を進めました。

DX人材育成プログラムの受講方法のご案内

(確認事項)

- 本プログラムの受講にはマイクロソフト社のソフト
- 事前にパソコンやスマートフォンにインストールして
- 受講に必要なIDとパスワードは、別紙に記載の
- 前期間講科目の受講ルールについては以下のとおり

必修科目
全員必ず最初に受講してください。

No.1~4「ビジョン構築」計12時間

選択必修科目
以下の3つのグループからグループを1つ以上選んで受講し、以下の3つのグループの受講、すべてのグループの受講も可能です。どのグループを選んでいただいてもかまいませんが、選んだすべてを受講することで修了となります。

Aグループ No.5~9 「デジタルリテラシー」計12
Bグループ No.10~21 「Office活用」計36時間
Cグループ No.22~30 「デジタルコミュニケーション」

選択科目
Aグループ「デジタルリテラシー」を選択した方のみ以下の科目を追加して選択して履修できます。

No.31~32「プログラミング基礎」計4時間

5. 課題の提出期限
各課題の提出期限の目安は以下のとおりです。参考にして頂く提出日は任意です。また、提出期限は、各グループのすべての日を表しています。方が一提出が遅れてもペナルティはありません
(例:「ビジョン構築1~4すべての課題を6月30日までに」)

必修科目 6月30日(日)
選択必修科目
グループを1つ選択の場合 7月31日(水)
グループを2つ選択の場合 11月7日(水)/21日(水)
グループを3つ選択の場合 11月7日(水)/21日(水)/29日(水)

デスクトップ版

Teamsのデスクトップ版にログインする方法は次の手順の通り

Microsoft Teams デスクトップ版を起動

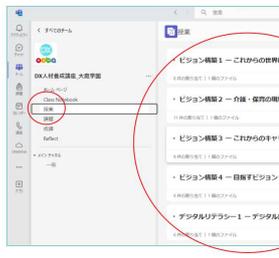


起動後、①職場や学校のアカウントもしくはMicrosoftアカウントを選択し、②【サインイン】ボタンを押します。

ログイン後、画面左側の「チーム」をクリックし、「DX人材育成講座 大庭学園」を選択します。



「授業」を選択すると右側に講座名の一覧が表示されます。



履修する講座（以下の例では「ビジョン構築2」）をクリックすると、講座の内容が表示されます。



上記画面から【ビジョン構築2】講義動画1をクリックすると以下の画面に移ります。



2 DX人材育成プログラムの実証検証（4）

② 広報・研修参加者の募集

沖縄福祉保育専門学校には、ヒューマン介護福祉科とこども未来学科の二つの学科が設置されています。それぞれの学科に所属する教員の許可を得たうえで、次ページに記載されている資料を基に、在校生を対象とした広報活動を実施いたしました。5月現在の在校生は以下の通りです。

ヒューマン	1年	26
ヒューマン	2年	15
こども未来 1年	保幼	9
	保स्प	16
こども未来 2年	保幼	8
	保स्प	22

5月に入りクラスが落ち着いた段階で、DX人材育成講座の事務担当者が各クラスを巡回し、20分~30分程度の講座の広報活動を行った後、受講希望者の募集を行いました。

学生のほとんどは、DXという言葉の意味を理解していなかったものの、講座でITスキルを習得できるのであれば受講を前向きに検討したいという反応がほとんどでした。



大庭学園 DX人材育成プログラム 受講生募集！

未来を自分の手で切り開くDXスキルを身につけよう！

このプログラムの魅力

- スマホでサクッと学べるTeamsを使ったオンライン講座！
- データ分析やプロジェクト管理など、未来に必要なDXスキルをマスター！
- DXの専門家や実践者から学べるチャンス！
- 受講料は無料！修了証書ももらえる！

こんな人におすすめ

- 世の中を変えることに興味がある人
- 人と一緒に何かを作りたい人
- 自分の可能性を広げたい人
- 未来の社会に貢献したい人

応募方法

以下のQRコードから、
今すぐエントリー！



締切

2024年5月27日（月）17時

ソーシャルワーク専門学校内 DX人材育成推進センター

専修学校による地域産業中核的人材養成事業

ソーシャルワーク専門学校(令和5年度より2年事業)

介護・保育の現場で活躍するためのDX人材開発モデル事業

本事業では、DX人材が事業所や施設の現場で課題を発見し解決することで、業務の効率化を図るための人材を育成するといった視点で提案しておりますが、一方で、福祉のサービスそのものに目を向けると、現場に潜む課題も多くみられます。

そこで現場と協働し、業務効率化によって創出された時間を活用するなどして、以下のように保育者のスキル向上や当該サービスそのもののDX化を図るなど、DX人材によるサービスの質の向上についても、併せて検討していきます。



前期開講講座一覧（標準学習期間6月～9月）

後期開講講座一覧（標準学習期間10月～1月）

No	実施タイミング	カテゴリ	授業	所用時間
1	初年度	ビジョン構築	これから世界はどうなる？	3時間
2	初年度	ビジョン構築	介護・保育の現場はどうあるべきか？	3時間
3	初年度	ビジョン構築	これからのキャリアをどう考えるか？	3時間
4	初年度	ビジョン構築	目指すビジョン(理想像・未来像)は？	3時間
5	初年度	デジタルリテラシー	デジタル活用の利用シーンを知る	1.5時間
6	初年度	デジタルリテラシー	デジタルを構成する要素について知る	1.5時間
7	初年度	デジタルリテラシー	セキュリティを理解し正しく使う	3時間
8	初年度	デジタルリテラシー	ICT環境を正しく利用できる	3時間
9	初年度	デジタルリテラシー	DXを理解する	3時間
10	初年度	office活用①	Excel演習Ⅰ	3時間
11	初年度	office活用②	Excel演習Ⅱ	3時間
12	初年度	office活用③	Word演習Ⅰ	3時間
13	初年度	office活用④	Word演習Ⅱ	3時間
14	初年度	office活用⑤	PPT演習Ⅰ	3時間
15	初年度	office活用⑥	PPT演習Ⅱ	3時間
16	初年度	office活用⑦	Officeツールまとめ	3時間
17	初年度	office活用⑧	Officeツール活用	3時間
18	初年度	office活用⑨	O365Ⅰ/クラウドについて理解する	3時間
19	初年度	office活用⑩	O365Ⅱ/情報共有ツール (O365(OneDrive, OneNote, Teams/ データ共有)	3時間
20	初年度	office活用⑪	Forms, データ収集・加工Ⅰ	3時間
21	初年度	office活用⑫	Forms, データ分析Ⅱ	3時間
22	初年度	デジタルコミュニケーション①	システム導入概要	3時間
23	初年度	デジタルコミュニケーション②	要件整理	3時間
24	初年度	デジタルコミュニケーション③	現状整理	3時間
25	初年度	デジタルコミュニケーション④	プロジェクトマネジメント	3時間
26	初年度	デジタルコミュニケーション⑤	組織内コミュニケーション (コミュニティオーガナイズ)	3時間
27	初年度	デジタルコミュニケーション⑥	運用検討Ⅰ	3時間
28	初年度	デジタルコミュニケーション⑦	運用検討Ⅱ	3時間
29	初年度	デジタルコミュニケーション⑧	演習Ⅰ	3時間
30	初年度	デジタルコミュニケーション⑨	演習Ⅱ	3時間
31	初年度	プログラミング基礎	プログラミング概要Ⅰ	2時間
32	初年度	プログラミング基礎	プログラミング概要Ⅱ	2時間
33	初年度	講座の受け方	講座の受け方	91時間

No	実施タイミング	カテゴリ	授業	所用時間
1	初年度	デジタル実装演習(実践)	課題解決を実際に行うため現地で演習を行う	16時間
2	2年次	課題解決	課題解決とは何か？	3時間
3	2年次	課題解決	事実を可視化する方法	3時間
4	2年次	課題解決	事実を考察し課題とするⅠ	3時間
5	2年次	課題解決	事実を考察し課題とするⅡ	3時間
6	2年次	課題解決	解決の方向性を定める	3時間
7	2年次	課題解決	目指すビジョンを定める	3時間
8	2年次	課題解決	解決策を出し合うⅠ	3時間
9	2年次	課題解決	解決策を出し合うⅡ	3時間
10	2年次	課題解決	解決策を実行に移す準備	3時間
11	2年次	課題解決	解決策を実行する	3時間
12	2年次	関係構築	課題を解決するチーム作り	3時間
13	2年次	関係構築	ファシリテーションの演習Ⅰ	3時間
14	2年次	関係構築	ファシリテーションの演習Ⅱ	3時間
15	2年次	カスタマーセントリシティ	顧客とはだれか？	3時間
16	2年次	カスタマーセントリシティ	顧客が求める現在のサービスとは？Ⅰ	3時間
17	2年次	カスタマーセントリシティ	顧客が求める現在のサービスとは？Ⅱ	3時間
18	2年次	情報収集	様々な情報収集方法	3時間
19	2年次	情報収集	インタビューでの情報収集	3時間
20	2年次	情報収集	アンケートでの情報収集	3時間
21	2年次	情報収集	データの扱いと考察Ⅰ	3時間
22	2年次	情報収集	データの扱いと考察Ⅱ	3時間
23	2年次	ロジカルシンキング	ロジカルシンキングとは何か？	3時間
24	2年次	ロジカルシンキング	帰納法・演繹法Ⅰ	3時間
25	2年次	ロジカルシンキング	帰納法・演繹法Ⅱ	3時間
26	2年次	ロジカルシンキング	帰納法・演繹法Ⅲ	3時間
27	2年次	ロジカルシンキング	総合演習	3時間
28	2年次	デザインシンキング	デザイン思考とは何か？	3時間
29	2年次	デザインシンキング	5段階プロセス	3時間
30	2年次	デザインシンキング	共感マップ・分析	3時間
31	2年次	デザインシンキング	ビジネスモデルキャンパス	3時間
32	2年次	デザインシンキング	総合演習	3時間
33	2年次	課題解決演習(実践)	課題解決を実際に行うため現地で演習を行う	16時間
33	コマ			125時間

2 DX人材育成プログラムの実証検証（7）

③ 開講・質疑応答対応

講座の開講に際し、受講希望者の皆様にはアカウント登録などの事前準備を5月30日までに完了し、6月4日より受講を開始していただく旨のご案内を送付しました。以下、開始通知の詳細になります。

この度は、本校のDX人材育成プログラムにお申込みいただき、誠にありがとうございます。ご連絡が遅くなりましたが、6月4日開講予定の講座の受講方法について、以下のとおりご案内させていただきます。

■ 受講方法

- 1 パソコンまたはスマートフォンなど学習を進めるデバイスにMicrosoft Teamsが利用できる環境を用意してください。
- 2 受講の際は、本メールに添付の学校指定のアカウント（ID、パスワード）をご使用ください。それ以外のメールアドレスではサインインできませんのでご注意ください。
- 3 サインイン後の受講の方法については添付の「DX人材育成プログラムの受講方法のご案内」をご覧ください。
- 4 受講サイトへのアクセスは6月4日10時以降可能になります。それ以前はアクセスできませんのでご注意ください。

なお、プログラムの内容は予告なく変更する場合があります。その際は、事務局よりTeamsにてお知らせいたします。

ご不明な点がございましたら事務局までお問い合わせください。

ソーシャルワーク専門学校 DX プログラム事務局：江川
電話の場合：098-933-8788（平日 9時-17時 祝日を除く）
メールの場合：dx-info@oobagakuen.onmicrosoft.com

 [DX人材育成プログラム受講者用-28.pdf](#) 詳細 463 KB

 [DX人材育成講座の受講マニュアル.pdf](#) 詳細 1842 KB

2 DX人材育成プログラムの実証検証（8）

コース制の採用

本講座の開講にあたり、受講生の皆様には受講する科目グループの選択をお願いしました。1年次分として開講する全ての講義を受講すると、91時間以上が必要となるため、学生の皆様の本科との両立を考慮し、科目を絞って受講いただく方が望ましいと判断いたしました。

なお、グループは必修科目、選択必修科目、選択科目の3つで構成されており、事前に学生の皆様に登録していただきました。

必修科目

全員必ず最初に受講してください。

No.1~4「ビジョン構築」計12時間

選択必修科目

以下の3つのグループからグループを1つ以上選んで受講してください。なお、2つのグループの受講、すべてのグループの受講も可能です。

どのグループを選んでいただいてもかまいませんが、選んだグループ内の授業をすべて受講することで修了となります。

Aグループ No.5~9 「デジタルリテラシー」計12時間

Bグループ No.10~21 「office活用」計36時間

Cグループ No.22~30 「デジタルコミュニケーション」27時間

選択科目

Aグループ「デジタルリテラシー」を選択した方のみ

以下の科目を追加で選択して履修できます。

No.31~32「プログラミング基礎」計4時間

2 DX人材育成プログラムの実証検証（9）

2年次の講座は科目グループではなく、科目の難易度に基づいて初級から上級までのレベル分けを行い、受講者に選択していただく方式といたしました。これは、1年次の講座がスキルに関する科目で構成されていたのに対し、2年次の科目は知識の深度に基づいて構成されているためです。各科目は課題解決に必要なものとして位置付けられており、現場での実践力がそのまま科目の深度に反映される形となっております。

受講者の皆様には、このような背景を説明した上で、受講する科目を選んでいただきました。

必修科目

□全員必ず受講してください。

←

No.1~3 | □共通・初級コース | 計 76 時間

←

コース名の後に共通・初級と記載されている

←

授業が対象。

←

選択必修科目

□各授業の中級・上級まで進んでいただくとより高度な講座を受けることができます。

←

No.1~3 | □中級コース | 計 8 時間

No.1~3 | □上級コース | 計 9 時間

2 DX人材育成プログラムの実証検証（10）

開講に際しては、問い合わせ先を設置し、Teamsの使用方法やスマートフォンおよびパソコンでの操作方法などの説明ができる体制を整えました。

本講座の構成として、プラットフォームはTeamsを使用しましたが、動画はYouTubeの限定配信を利用し、小テストなどのワークはマイクロソフトのFormsを使用しました。しかし、これに伴いリンク切れなどのトラブルが発生しました。特に多かった問題点として、高校やプライベートで既にマイクロソフトアカウントを保有しているため、権限の関係でTeamsにアクセスできないという事例が挙げられます。本講座を受講するためには学校指定のアカウントでアクセスする必要がありましたが、スマートフォンやパソコンで個人のアカウントが設定されている場合、切り換えが必要となり、この操作を行わなかったためにアクセスできないケースが少なくありませんでした。

同様の問題は、コロナ禍で遠隔授業を多く実施していた際にも発生し、ノウハウを持っていたため問い合わせがあれば対処できました。しかし学生の中には問い合わせをせずにアクセスできないことを理由に受講を止めてしまったケースもあるのではないかと推察しています。

そこで、次年度に向けてプラットフォームの見直しも検討課題として、現在システムの選定を行っております。

2 DX人材育成プログラムの実証検証（11）

開講時点で、沖縄福祉保育専門学校から25名の学生のエントリーをいただきました。内訳は、こども未来学科から20名、ヒューマン介護福祉科から5名でした。その中で2年生の参加者は、こども未来学科から11名のみであり、ヒューマン介護福祉科からの参加はありませんでした。

その後、学生の受講状況については、単に課題の提出のみで判断するのではなく、10月末時点で2年次コース登録の案内を行い、回答があった学生の数を把握しました。また、1月末に予定していた対面での研修の出席確認を通じて、2月に実施する予定だった研修の出席者数を確認し、これらのデータを基に受講生の継続状況を確認しておりました。具体的な学習の継続状況は以下の通りです。

当初申し込み（6月4日現在）	（10月末現在）	（2025年2月現在）
全体：25名	2年次コース登録者：7名	対面研修回答者：4名
こども未来学科1年生：9名	3名	0名
こども未来学科2年生：11名	2名	3名
ヒューマン介護福祉科1年生：5名	2名	1名

2 DX人材育成プログラムの実証検証（12）

④ 進捗管理

受講生の進捗管理については、次ページのように、EXCELシートで行いましたTeamsやFormsで一人ひとりの学習状況を確認しながら、EXCELシートを更新する作業が中心となります。当初はDX人材育成講座の担当者が対応しておりましたが、TeamsやFormsでの学習履歴の管理がリンクしていないため、各受講者の動画視聴状況や課題提出状況を個別にチェックする必要があり、その作業は非常に煩雑でありました。

法人契約しているOffice365の活用がコストや新システム導入の手間を考慮すると最適な選択と考えておりましたが、工数をかければ実現可能なものの、受講者数の増加を見込んだ場合、時間的に厳しいという結論に至りました。

そのため、当初予算に計上していた専任の担当者を臨時採用することを検討いたしましたが、適任者が見つからず、結果として計画を変更し、管理の一部を外部に委託する方式を採用することにいたしました。

現在、プラットフォームの見直しを行っている理由の一つには、この問題も含まれています。新しいプラットフォームでは、管理者側での進捗管理に加え、受講者自身が受講管理をしやすい仕組みも必要であると考えております。

2 DX人材育成プログラムの実証検証

	学生A	学生B	学生C	学生D	学生E	学生F	学生G	学生H	学生I
【ビジョン構築1】講義動画1	閲覧済み								
【ビジョン構築1】ワーク1-(1)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	表示済み×	提出済み○	提出済み○	表示済み○	×	提出済み○
【ビジョン構築1】講義動画2	×	×	×	×	×	×	×	×	×
【ビジョン構築1】講義動画3	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み
【ビジョン構築1】ワーク1-(2)	×	提出済み×	提出済み×	×	×	表示済み×	×	×	×
【ビジョン構築1】講義動画4	閲覧済み	×	閲覧済み						
【ビジョン構築1】ワーク1-(3)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	×	提出済み○	提出済み○	表示済み○	×	提出済み○
【ビジョン構築1】講義動画5	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み
【ビジョン構築1】ワーク1-(4)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	×	提出済み○	表示済み○	表示済み○	提出済み○	提出済み○
【ビジョン構築2】講義動画1	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み
【ビジョン構築2】ワーク2-(1)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	×	提出済み○	提出済み○	表示済み○	×	提出済み○
【ビジョン構築2】講義動画2	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み
【ビジョン構築2】ワーク2-(2)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	×	提出済み×	表示済み○	表示済み○	×	提出済み○
【ビジョン構築2】講義動画3	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み
【ビジョン構築2】ワーク2-(3)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	×	提出済み○	提出済み×	×	×	提出済み○
【ビジョン構築2】講義動画4	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	×	×	閲覧済み
【ビジョン構築2】ワーク2-(4)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	×	提出済み○	表示済み×	×	×	提出済み○
【ビジョン構築2】講義動画5	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	×	×	閲覧済み
【ビジョン構築2】ワーク2-(5)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	×	提出済み○	×	×	×	提出済み○
【ビジョン構築2】講義動画6	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	×	×	閲覧済み
【ビジョン構築3】講義動画1	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	×	×	閲覧済み
【ビジョン構築3】ワーク3-(1)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	×	提出済み○	提出済み○	×	×	提出済み○
【ビジョン構築3】講義動画2	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	×	×	閲覧済み
【ビジョン構築3】ワーク3-(2)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	×	提出済み○	表示済み×	×	×	提出済み○
【ビジョン構築3】講義動画3	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	×	×	閲覧済み
【ビジョン構築3】ワーク3-(3)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	×	提出済み○	提出済み○	×	×	提出済み○
【ビジョン構築3】講義動画4	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	×	×	閲覧済み
【ビジョン構築3】ワーク3-(4)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	×	提出済み○	表示済み×	×	表示済み×	提出済み○
【ビジョン構築3】講義動画5	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	×	×	閲覧済み
【ビジョン構築4】講義動画1	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	×	×	閲覧済み
【ビジョン構築4】ワーク4-(1)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	×	提出済み○	提出済み○	×	×	提出済み○
【ビジョン構築4】講義動画2	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	×	×	閲覧済み
【ビジョン構築4】講義動画3	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	×	閲覧済み
【ビジョン構築4】ワーク4-(2)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	×	提出済み○	提出済み○	×	×	提出済み○
【ビジョン構築4】講義動画4	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	×	×	閲覧済み
【ビジョン構築4】講義動画5	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	×	×	閲覧済み
【ビジョン構築4】ワーク4-(3)	提出済み○	提出済み○	提出済み○	×	提出済み○	提出済み○	×	×	提出済み○
【ビジョン構築4】講義動画6	閲覧済み	閲覧済み	閲覧済み	×	閲覧済み	閲覧済み	×	×	閲覧済み
動画視聴	21	21	21	3	21	21	7	1	21
ワーク	15	15	15	0	14	10	5	1	15
動画視聴率	95%	95%	95%	14%	95%	95%	32%	5%	95%
ワーク実施率	94%	94%	94%	0%	88%	63%	31%	6%	94%

2 DX人材育成プログラムの実証検証（14）

具体的な科目ごとの履修状況は次のページを参照してください。2年次科目の受講者がほとんどいなくなってしまう原因として考えられることとして、まず科目や時間数が多くなってしまったことが挙げられます。

もともとDX人材の柱として考えていた課題発見・解決能力について学習する科目に加え、現場ヒアリングの結果、必要と判断した情報リテラシーやオフィスソフトの操作方法などが加わった結果、66科目200時間以上のプログラムとなりました。そのため、学習のための時間確保が継続を妨げる要因となった可能性があります。

沖縄福祉保育専門学校での卒業要件単位数は、ヒューマン介護福祉科で90単位、こども未来学科で82単位から97単位となっています。これは専門学校と同じ2年課程の短期大学での卒業要件単位数62単位のほぼ1.5倍となっていることがわかります。免許や資格に必要な単位数は厚生労働省の基準に基づいて設定されており、加えて現場実習などが含まれるため、夏休みや春休みなどを含め、ほとんど自由な時間を取ることが難しい状況です。さらに、専門学校の特性上、アルバイトをせざるを得ない学生も多いため、DX人材育成講座の受講を継続することが困難となる理由の一つと考えられます。

結果として、検証に必要な十分な学習データを取ることができませんでした。

コース	カリキュラム名	受講者全体	完了者数	動画視聴者数	ワーク実施者数	ワーク平均点
必須	ビジョン構築 1	25	14	14	14	81
必須	ビジョン構築 2	25	11	12	11	76
必須	ビジョン構築 3	25	11	12	11	89
必須	ビジョン構築 4	25	11	12	11	81
Aコース	デジタルリテラシー 1	25	8	8	8	87
Aコース	デジタルリテラシー 2	25	6	7	7	94
Aコース	デジタルリテラシー 3	25	6	6	7	72
Aコース	デジタルリテラシー 4	25	6	6	7	85
Aコース	デジタルリテラシー 5	25	6	6	6	85
Bコース	Office活用 1	25	4	6	6	100
Bコース	Office活用 2	25	3	7	3	92.5
Bコース	Office活用 3	25	3	7	3	95
Bコース	Office活用 4	25	3	7	3	100
Bコース	Office活用 5	25	3	7	3	90
Bコース	Office活用 6	25	3	7	3	85
Bコース	Office活用 7	25	2	4	2	66
Bコース	Office活用 8	25	2	4	2	66
Bコース	Office活用 9	25	2	4	3	89
Bコース	Office活用 1 0	25	2	4	3	85
Bコース	Office活用 1 1	25	2	4	3	83
Bコース	Office活用 1 2	25	1	3	2	45
Cコース	デジタルコミュニケーション 1	25	0	1	0	0
Cコース	デジタルコミュニケーション 2	25	0	1	0	0
Cコース	デジタルコミュニケーション 3	25	0	1	0	0
Cコース	デジタルコミュニケーション 4	25	0	1	0	0
Cコース	デジタルコミュニケーション 5	25	0	1	0	0
Cコース	デジタルコミュニケーション 6	25	0	1	0	0
Cコース	デジタルコミュニケーション 7	25	0	1	0	0
Cコース	デジタルコミュニケーション 8	25	0	1	0	0
	デジタルコミュニケーション 9	25	0	1	0	0
選択	プログラミング概要 I	25	0	1	0	0
選択	プログラミング概要 II	25	0	1	0	0

コース	カリキュラム名	受講者全体	完了者数	動画視聴者数	ワーク実施者数	ワーク平均点
初級	課題解決 1	25	0	1	1	100
初級	課題解決 2	25	0			
初級	課題解決 3	25	0			
初級	課題解決 4	25	0			
初級	課題解決 5	25	0			
初級	課題解決 6	25	0			
初級	課題解決 7	25	0			
初級	顧客中心主義 1	25	0	1	1	100
中級	顧客中心主義 1	25	0			
上級	顧客中心主義 1	25	0			
初級	顧客中心主義2	25	0	1	1	100
中級	顧客中心主義2	25	0			
上級	顧客中心主義2	25	0			
初級	論理的思考の概要 1	25	0			
中級	論理的思考の概要 1	25	0			
上級	論理的思考の概要 1	25	0			
初級	論理的思考の概要2	25	0			
中級	論理的思考の概要2	25	0			
上級	論理的思考の概要2	25	0			
初級	論理的思考の概要 3	25	0			
中級	論理的思考の概要 3	25	0			
上級	論理的思考の概要 3	25	0			
初級	論理的思考の概要 4	25	0			
中級	論理的思考の概要 4	25	0			
上級	論理的思考の概要 4	25	0			
初級	論理的思考の概要5	25	0			
中級	論理的思考の概要5	25	0			
上級	論理的思考の概要5	25	0			
初級	論理的思考の概要6	25	0			
中級	論理的思考の概要6	25	0			
上級	論理的思考の概要6	25	0			
初級	論理的思考の概要7	25	0			
中級	論理的思考の概要7	25	0			
上級	論理的思考の概要7	25	0			

初級	批判的思考 1	25	0			
初級	デザイン思考 1	25	0			
中級	デザイン思考 1	25	0			
上級	デザイン思考 1	25	0			
初級	デザイン思考 2	25	0			
初級	課題管理 1	25	0			
中級	課題管理 1	25	0			
上級	課題管理 1	25	0			
初級	課題管理2	25	0			
初級	コミュニケーション 1	25	0			
初級	コミュニケーション 2	25	0			
初級	コミュニケーション 3	25	0			
初級	チームビルディング 1	25	0			
中級	チームビルディング 1	25	0			
上級	チームビルディング 1	25	0			
初級	チームビルディング 2	25	0			
中級	チームビルディング 2	25	0			
上級	チームビルディング 2	25	0			
初級	ファシリテーション1	25	0			
初級	ファシリテーション2	25	0			
初級	プレゼンテーション 1	25	0			
初級	プレゼンテーション2	25	0			
初級	プレゼンテーション3	25	0			

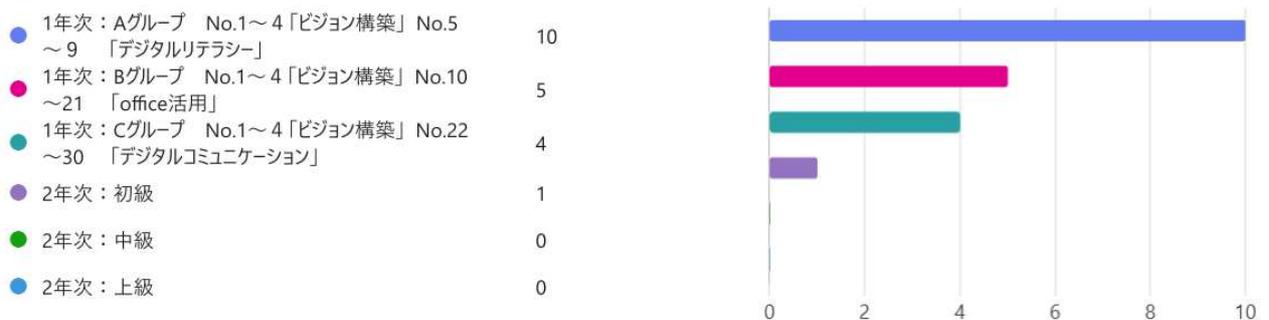
2 DX人材育成プログラムの実証検証（18）

⑤ アンケート結果

受講期間の終了に際し、受講生へのアンケート調査を実施しました。

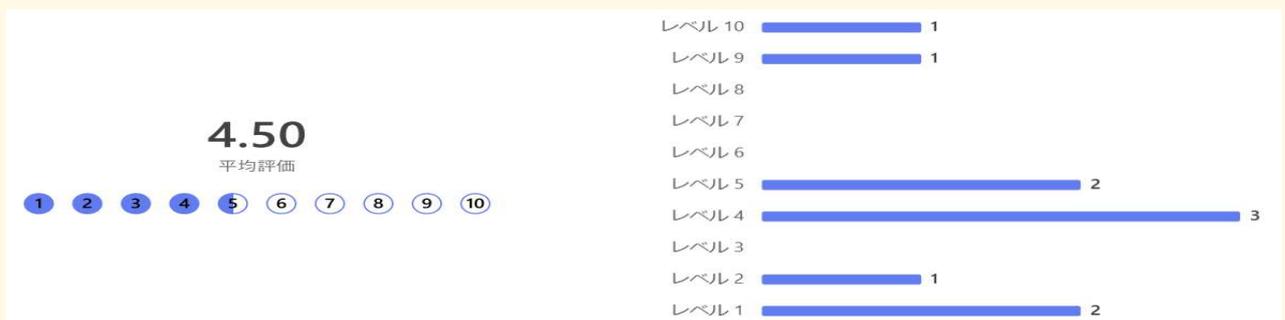
アンケートの詳細はAPPENDIXも参照していただければと思いますが、主な集計結果は以下のとおりです。

- ・受講 または 視聴・ワークを実施したコースを教えてください。

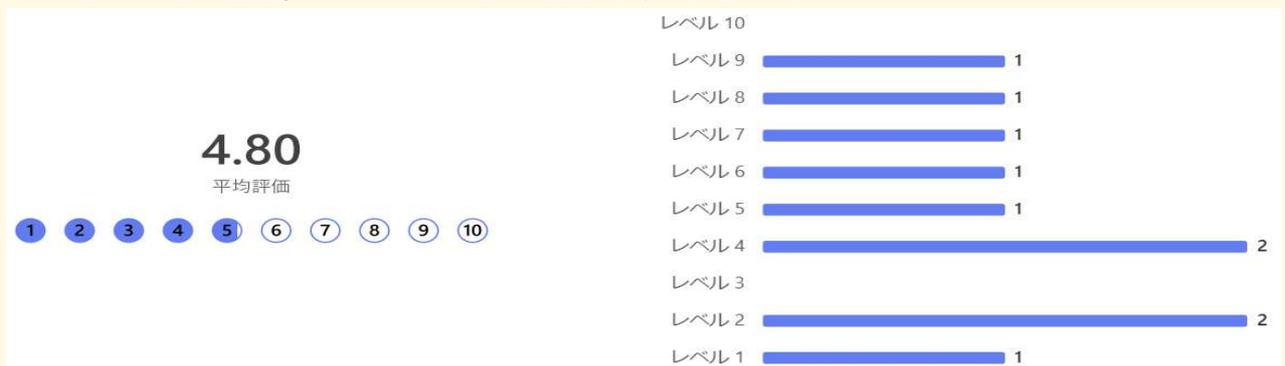


2 DX人材育成プログラムの実証検証（19）

- ・受講した授業の動画内容の難易度を教えてください。

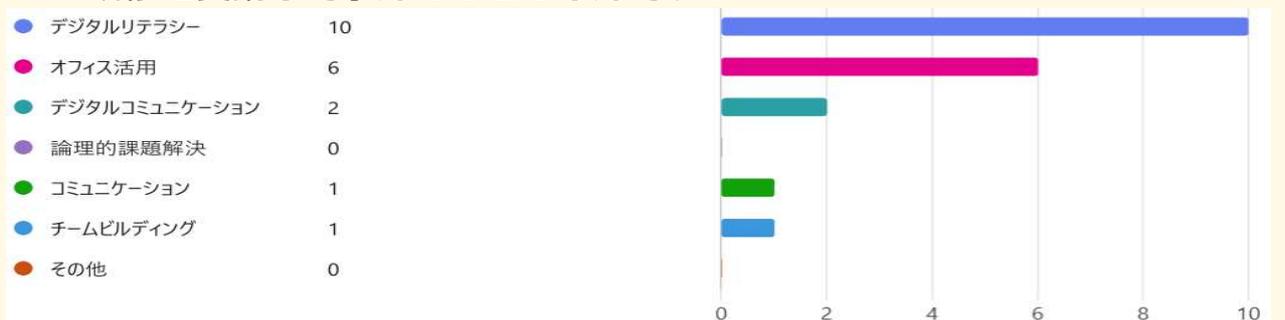


- ・受講した授業のワークの難易度を教えてください。

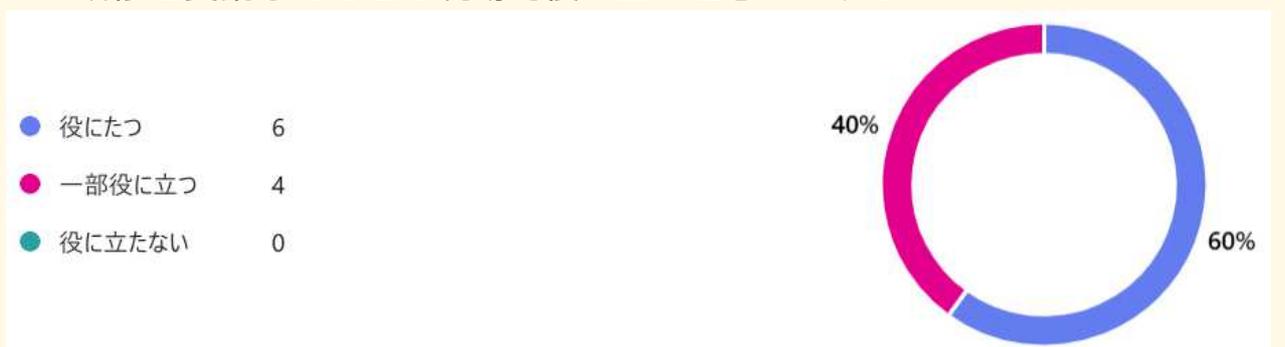


2 DX人材育成プログラムの実証検証（20）

- ・研修を受講して学んだことはなんですか？



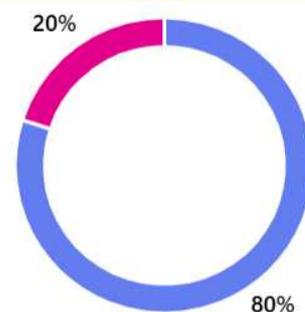
- ・研修を受講したことは現場で役に立つと思いますか？



2 DX人材育成プログラムの実証検証（21）

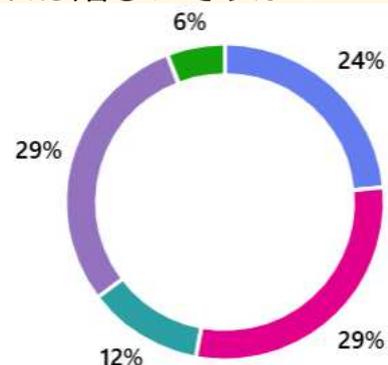
・研修の受講ができなかった理由を教えてください。

● 授業や演習または業務と重なったため	8
● プライベート（アルバイトなど）の予定と重なったため	2
● イベントや資格試験と重なったため	0
● 研修が難しく理解しづらくなったため	0
● その他	0



・研修の受講を完了するためにどのような改善があれば嬉しいですか？

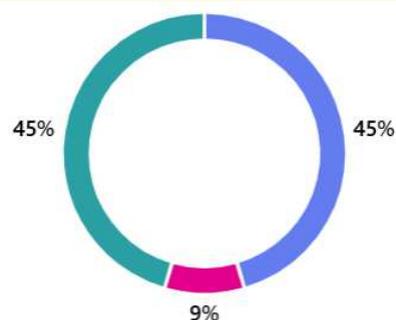
● 研修の受講期間を長くする	4
● 質問・問合せ・相談をしやすくする	5
● 対面授業などを増やす	2
● 研修難易度を簡単にする	5
● その他	1



2 DX人材育成プログラムの実証検証（22）

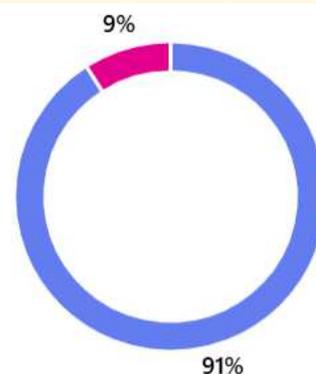
・学習を進めるにあたり、どのような方法であれば学習が進みますか？

● 完全オンライン研修	5
● 完全対面研修	1
● オンライン研修が主だが対面研修も実施	5
● 対面研修が主となり、オンライン教材を補助として利用	0
● その他	0



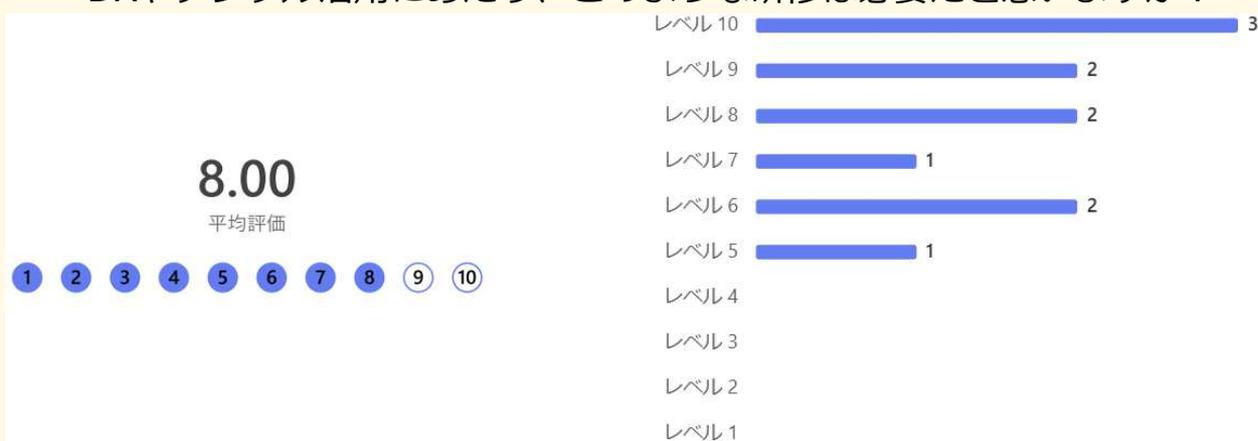
・DXやデジタル活用に向けた研修はいつ受講することがよいと思いますか？

● 学生のうちから学習	10
● 現場で就業してから学習	1
● 現場で管理職になってから学習	0
● その他	0



2 DX人材育成プログラムの実証検証（23）

・DXやデジタル活用にあたり、このような研修は必要だと思いますか？



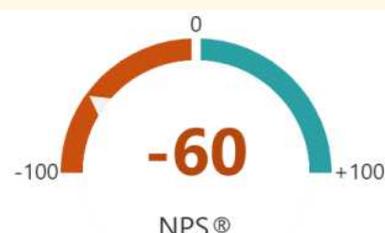
8.00

平均評価



・本研修を友人や仕事仲間に勧める可能性はどの程度ありますか？

推奨者	2
消極的	0
反対	8



2 DX人材育成プログラムの実証検証（24）

⑥ まとめ

アンケートの結果からも明らかになったように、DXに関する研修の必要性は認識されているものの、学習時間の確保が困難であることが課題として浮き彫りになりました。これらの問題を解決するために、オンデマンド形式の教材を開発しましたが、動画およびワークの難易度がそれほど高くないにもかかわらず、1年次の後半、特に「デジタルコミュニケーション」の科目以降でリタイアが目立つ結果となりました。

この背景には、パイロットテストという特殊な環境下で、2年分の内容を8か月で終了する形で提供したことが影響していると考えられます。

その結果、学生はプログラムを必要な研修として認識しつつも、友人には勧められないという回答が多く見受けられました。

これらの点を踏まえ、事業期間の終盤からは、科目の選別とプログラムの再編を行い、受講者の意欲を高め、受講しやすいプログラムとして次年度以降の活用に向けて検討を進めました。

2 DX人材育成プログラムの実証検証（25）

（2）スクーリング（対面授業）の検討・開催断念

当プログラムの総括として、対面講座の準備を進めてまいりました。原則として、土曜日と日曜日の2日間、1日8時間の講座を予定しておりました。しかし、1年次のITリテラシー講座と2年次の課題解決講座の両方を実施する場合、計4日間を要することとなります。時期的な制約も考慮し、講座内容を1日に集約して実施する方向で検討いたしました。実施日は2025年2月9日（日）とし、次ページのシラバスを添付して受講生の皆様に以下の案内を送付いたしました。

日時：2月9日（日） 9:00 – 18:00

場所：沖縄福祉保育専門学校 401, 402教室

講座内容の大きなテーマとキーワードは以下の通りです：

- ・デジタル活用: DXの概念とその必要性を学び、実践的なスキルを身につけます。
- ・課題解決能力: 課題を特定し、解決策を見つけるためのプロセスを学びます。
- ・チームビルディング: チーム内での協力と心理的安全性を高める方法を学びます。
- ・コミュニケーションスキル: 効果的なコミュニケーション技術を習得します。

講座の詳細については、次ページからのシラバスをご参照ください。

セミナーシラバス		担当 教員	玉川 博之
科目名	カテコリ	単位	
授業の 実施方法	実証演習 時間：2月9日 9:00~18:00(12:00~13:00 休憩)/8時間 教室での授業を実施 ※その他休憩は適時とりながら進める	授業形態	オンプレミス
評価方法 と基準	実施方法：ワーク 評価方法：ワーク結果にて評価		
授業の 学習内容	講義、個人ワーク、グループワーク		
到達目標	・課題を特定し解決に向けた道筋を立てることができる。 ・チームに対しての貢献や自分の役割を意識した行動ができる。		

授業計画・授業内容			その他
No	タイトル	内容	
1	オリエンテーション	挨拶、講師自己紹介 本日のスケジュール・ゴールの説明	
2	チームビルディングとは	チームビルディングとは何か？ 心理的安全性と関係の質 オーナーシップ 自己紹介ワークの振り返り	生徒に答えを聴きながら進める
3	コミュニケーションとは	コミュニケーションとは何か 傾聴、質問、伝達 アサーティブなコミュニケーション ソーシャルスタイル	生徒に答えを聴きながら進める
4	ワーク1（演習）	ワークテーマ：自己紹介 名前、出身、仕事、役割、仕事として選ぶきっかけとなった出来事、仕事上の関心などを紹介するために自己紹介の準備をする。	4/5人程度のグループを作成し実施する ※PCありの場合 → PPTにまとめる ※PCなしの場合 → 紙にまとめる(手書き)

	ワーク2 (演習)	00:30 (11:50)	ワークテーマ：不足する情報を集める 情報整理をし、要件を詰めるためにはどのような情報が欲しいかを考え、質問をする。 尚、質問事項は以下の2つの視点を意識する。 質問は Forms に記入する形で行う。 ポイント 1. 解決すべき問題の結論を出すために必要な情報を集める (要件を満たすものを採るための情報を集める) 2. 解決すべき問題の結論(仮説)の説得力を増すための情報を集める (要件が満たされていることを裏付けるための情報を集める)
9			
10	午前中総括	00:10 (12:00)	午前中の復習を行う 質疑応答
11	お昼休憩	01:00 (13:00)	お昼休憩
12	ワーク3の説明	00:15 (13:15)	午後の流れの説明を行う 質問項目への発表 追加の質問があれば、口頭でも実施する
13	ワーク3 (演習)	00:30 (13:45)	ワークテーマ：条件を満たす記録の方法 質問の回答を整理し、どのような方法で記録をとれば学校長の条件を満たすことができるかを検討する
14	ワーク4の説明	00:10 (13:55)	本質的な課題とは何かを説明する。 要件を改めて見返した時に、何のために記録を取ろうとしているのかを考える。 本質的な課題意識を持つことを伝える。

5	ワーク1 (発表)	00:20 (10:25)	ワークテーマ：自己紹介 グループ内で自己紹介を行う 傾聴・質問・伝達を意識し、一方的に話すのではなく、質問もしていく。 自己紹介を通して、グループメンバーの意見をまとめ、共通点を整理する	4/5人程度のグループを作成し実施する 代表者がまとめる ※PCありの場合 → PPTにまとめる ※PCなしの場合 → 紙にまとめる(手書き)
6	休憩	00:10 (10:35)	休憩	
7	DXが必要な理由	00:30 (11:05)	DXとは何か？ DXが必要な理由 日本の現状と世界的状況 デジタル化を進めるために必要なもの DXと課題解決の関係性	※PCありの場合 生成AIなどの紹介をし、PCで簡単に触ってもらう。 ※PC無しの場合 講師のPCで受講者にプロンプトを検討してもらい、操作を実施する。
8	ワーク説明	00:15 (11:20)	ワークの全体像の説明をする ワークのストーリーの説明 学校長の要望により、学校の日常を記録することが決まりました。学校長への質問や質問からわかった情報を元として記録の取り方を検討します。 PCありの場合 ・ワーク2はFormsから送信 PC無しの場合 ・ワーク2・3は紙に書いて提出 ファシリテーションやコミュニケーションの注意点を合わせて共有し、ワーク中に意識をすることを説明する。	要件については、ある程度まとめたものを資料として提示した状態から始める。

20	休憩	00:10 (16:00)	休憩	休憩
	発表	00:60 (17:00)	発表を行う 1 チーム 5分 質疑応答 2分 講師フィードバック 3分	10分は発表のための マイクの移動などを 想定
21			5 チーム想定	
22	デジタルの活用と 安全性	00:30 (17:30)	生成 AI とは何かを理解する Copilot、Designer などの説明を実施 注意点を解説 情報の取り扱いリスクやセキュリティ対策につ いて理解	
23	まとめ	00:30 (18:00)	総括 質疑応答 アンケート回答	
	合計	8:00		
宿題	なし			
その他	なし			

15	ワーク4 (演習)	00:30 (14:25)	ワークテーマ：本質的な課題の検討 要件・質問から記録を何のたけに行うのかを検 討し、本当に解決すべきものが何かを整理す る。 追加の質問があれば口頭で行う。	
16	休憩	00:10 (14:35)	休憩	休憩
17	ワーク5 (演習)	00:30 (15:05)	ワークテーマ：解決すべき課題に対する、解決 策の検討 本質的な課題を特定し、課題解決にむけて解決策 のアイデアを考える。	
18	ワークの解説	00:25 (15:30)	ワーク3・4・5の解説 動画を取りたい理由の説明 前提情報でわからないことの整理 質問で確認していくことのポイント 本質的な課題は何かの説明 解決策のポイントの解説	ワークの解説
19	ワーク6 (演習)	00:30 (15:50)	ワークの振り返り ワークの進め方に伴う、ファシリテーションや チームビルディングなどの振り返りを行う。 進め方などの反省点や良かった点をグループ内 で話してもらう 発表の準備を行う 発表内容： チームビルディングの良かった点、反省点 ファシリテーションの良かった点、反省点 コミュニケーションの取り方で意識したこと 傾聴、質問、伝達などの振り返り 各ワークの気づきと反省点	

2 DX人材育成プログラムの実証検証（31）

なお、対面研修につきましては、その後一定期間を過ぎても参加申し込みの希望者が現れなかったため、誠に遺憾ながら、開催を中止いたしました。

今回実施を予定しておりました研修では、オンデマンド教材のまとめとして、グループワークを中心とした学習によって、チームワークの形成について学ぶ点を重視しておりました。併せて、講座を継続して受講していた学生に対して、直接対面でのヒアリングを実施し、改善ポイントをより具体化する目的もございました。

そこで、これらの点を補うために、プログラムを継続して受講している学生に直接お声掛けをし、数名でのインタビューを実施することとし、調整を行いました。

その結果、こども未来学科2年生の学生2名へのインタビューが実現し、アンケートでは何えなかった細かな内容についてお話を聞くことができました。

日時：2月6日（木）14:10-15:00

場所：沖縄福祉保育専門学校 学生談話室

インタビュー回答者：こども未来学科2年 謝花 歩さん

こども未来学科2年 比屋根 香織さん

2 DX人材育成プログラムの実証検証（32）

インタビュー内容：

1、今回の研修を受けてDXに対するイメージや意識の変化はあったか？

⇒ありました。今回の研修を受けるまでDXという言葉も知りませんでした
が、研修をはじめてからは、いろいろなところでDXという言葉を目にする
ようになり、とても必要なことと認識するようになりました。

2、DXという言葉は今どのように感じているか？

⇒職場では必ず必要になることと思います。ITスキルだけでなく、課題発見、
解決能力は福祉の分野だけでなくどこにいても必要な知識と感じている。

3、施設での演習などを通して、課題解決やデジタル活用の必要性を感じる
ことはあったか？

⇒実習に集中していてあまり気が付くことはなかった。

4、どのような受講方法なら受講しやすいか？

⇒1年と2年の講座が逆だといいと思う。学生が受講するなら、前期と夏休み
が比較的学習時間が確保しやすいので、2年間あれば終了できたと思う。

2 DX人材育成プログラムの実証検証 (32)

5、研修が必要な人はどのような人だと思うか？

⇒みんな必要だと思うが、学生のうちにやっておいた方がいいと思う。今回は時間の関係で全ての講座を講座を受けられなかったが、このような講座は他にはないので、学生のうちに勉強できるのはとてもありがたいと思う。



比屋根 香織さん

謝花 歩さん

2 DX人材育成プログラムの実証検証 (32)

まとめ

今年のDXプログラムの実施において、いくつかの課題が浮上いたしました。特に、Teamsの使いにくさや学習の進捗管理の難しさが指摘されました。

プログラムを受講した学生からは、DXに対する意識の変化や、IT技術の重要性を再認識する声が上がっております。特に、職場での業務負担の軽減や情報共有の迅速化に役立つと感じられております。プログラムを通じて得た知識が、現場での業務効率化や情報共有の迅速化に貢献すると考えられており、今後のプログラムの継続と改善が求められております。

次に、学生がDX教育を受ける際の課題と、その効果的な方法について議論いたしました。学生からは、夏休みや冬休みを利用した集中講座の提案がありました。また、課題発見解決の科目を1年次に配置することが望ましいとされております。加えて、課題のフィードバックの重要性が強調され、学生が自分の進捗を確認できるようにすることが提案されました。

最後に、DXの成功のためには、チームとしての協力が重要であると述べられました。チーム力を高めるためには、管理職の適切な声掛けや環境作りが必要であると指摘されました。この点については今年度パイロットテストとして実施しており、次年度以降も継続して実施する旨お伝えいたしました。

3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討（1）

（1）履修証明プログラムに関する調査

学生が受講を継続できなかった理由の一つとして、講義科目数や講義時間数が影響していると考えられました。そこで、プログラムの再編を行い、短期間かつ短時間でも学習できるように見直すことにいたしました。その際に参考にしたのが「履修証明プログラム」です。本プログラムについては、沖縄県内の専門学校での事例が見られなかったため、全国の専門学校の実施状況の調査を実施することにいたしました。

まずは文部科学省のホームページ等を利用して制度に関する情報収集を行い、それを分析しました。次に、他の専門学校での履修証明プログラムの実績について調査を進めました。専門学校での開設が困難であったり、複雑な申請が必要な場合、本校での導入が難しくなるためです。しかし、沖縄県と同様に専門学校で実施している学校はほとんど見当たらず、ようやく長野美術専門学校のデザインを学ぶプログラムを見つけることができました。

そのため、本事業で作成したプログラムの領域である「ITリテラシー」や「課題解決能力」などのプログラムを実施している大学や短大などで開設されているプログラムやその講座、講座の内容、募集方法や費用等についても調査し、本校のプログラムとの比較検討を行うことといたしました。

大学等における履修証明（certificate）制度について

趣旨

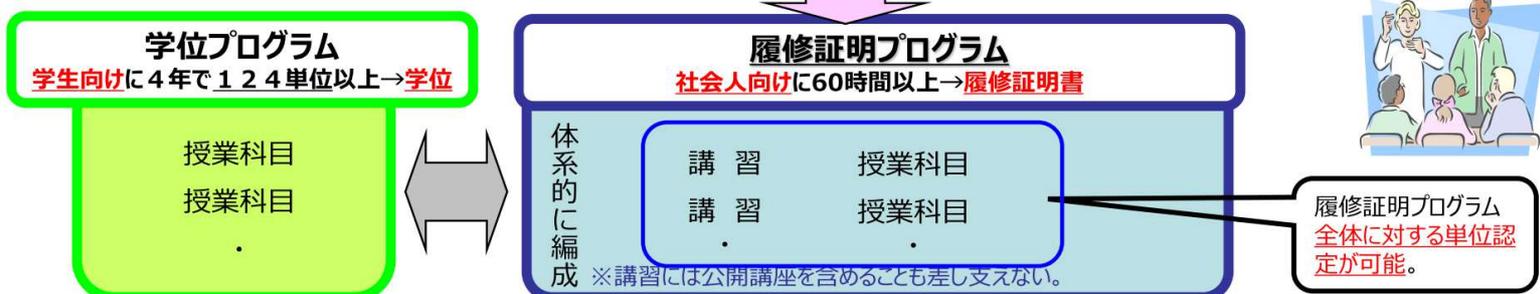
教育基本法第7条及び学校教育法第83条の規定により、教育研究成果の社会への提供が大学の基本的役割として位置づけられたことや、中教審答申の提言等を踏まえ、平成19年の学校教育法改正により、履修証明の制度上の位置付けを明確化。

これにより、各大学等（大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専門学校）における社会人等に対する多様なニーズに応じた体系的な教育、学習機会の提供を促進。

制度の概要

- 対象者**：社会人（当該大学の学生等の履修を排除するものではない）
- 内容**：大学等の教育・研究資源を活かし一定の教育計画の下に編成された、体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラム
- 期間**：目的・内容に応じ、総時間数60時間以上で各大学等において設定
- 証明書**：プログラムの修了者には、各大学等により、学校教育法の規定に基づくプログラムであること及びその名称等を示した履修証明書を交付
- 質保証**：プログラムの内容等を公表するとともに、各大学等においてその質を保証するための仕組みを確保
※学生を対象とした学位プログラムとは異なり、学位が授与されるものではない。

教育や研究に加え、大学の「第三の使命」としてのより直接的な社会貢献



3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討（2）

調査の結果、以下の点が明らかになりました。

履修プログラムの開設にあたり専門学校として

文部科学省への許可や届出が不要

- 手続きが簡素化されているため、迅速なプログラム開始が可能

学則の改訂作業が不要

- 学則に記載しなくてもプログラムの開設が可能

3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討（3）

そこで、DX人材育成プログラムを再編する方針を次のように決めました。

DX人材育成プログラム（R5～R6）の成果物

- 文科省から委託を受けDX人材育成プログラムを開発中

リカレント教育の一環として再編

- 外部向けのDX人材育成プログラムとして再編を予定

文部科学省が推奨する履修証明プログラム

- 大庭学園に社会人向けの履修証明プログラムとして開設

独自の収益事業として実施

- 他校では履修料 10,000円～400,000円のレンジで実施

3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討（4）

他校での事例に関しては、周南公立大学で「ITデータリテラシー入門講座」及び「クリエイティブシンキング&プレゼンテーション講座」といった本校と同様の講座内容で開講されていることがわかりました。

周南公立大学 履修証明プログラム「ITデータリテラシー入門講座」のご案内

オンデマンドで自分の好きな時間に好きな場所で学べます！

【特徴】

- ▶ プログラミングスキルは、現職業務だけでなく転職の際の**キャリアアップ**に繋がります！
- ▶ オンデマンド授業はネット環境があれば**好きな時間に好きな場所**で受講が可能です！
- ▶ 周南公立大学の情報科目担当教員による授業を大学生と一緒に学ぶことができます！

【受講概要】

- 講座名：ITデータリテラシー入門講座《履修証明プログラム》
- 総授業数：60回（15回×4科目）【計90時間】

講座内容	科目	授業形態	授業時間
講座内容	情報リテラシー	オンデマンド授業（録画視聴）	前期(2024年4月～8月)
	コンピュータ概論		
	Python入門		後期(2024年9月～翌2月)
	データサイエンス入門		

■ 受講料：128,200円（検定料9,800円込み）【計90時間】

■ その他：講座修了者に「履修証明書」を交付します。

■ 申込方法：お問合せ→大学学務課で申込み→受講料支払い→受講開始

■ 申込期間：**2024年3月4日（月）から4月5日（金）まで**

周南市が受講料を補助します！（予定※）
※令和5年度予算が議会で可決された場合
周南市民、周南市で働く人を対象に
受講料に対し**5万円**を補助！

お問合せ先 周南公立大学地域共創センター TEL：0834-28-5566（平日 9:00～17:00）

3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討（5）

周南公立大学 履修証明プログラム「クリエイティブシンキング&プレゼンテーション講座」のご案内

新たな視点から課題を解決する理論と実践を学んでみませんか！

【特徴】

- ▶ プログラミングスキルは、現職業務だけでなく転職の際の**キャリアアップ**に繋がります！
- ▶ オンデマンド授業はネット環境があれば**好きな時間に好きな場所**で受講が可能です！
- ▶ 周南公立大学の情報科目担当教員による授業を大学生と一緒に学ぶことができます！

【受講概要】

- 講座名：クリエイティブシンキング&プレゼンテーション講座
- 総授業数：53回（15回×3科目、8回×1科目）【計79.5時間】

講座内容	科目	授業形態	授業時間
講座内容	創造的問題解決	対面授業（大学）※週末等（要相談）	前期(2024年4月～8月)
	映像文化論		
	プレゼンテーションの仕方	対面授業（大学）※週末等（要相談）	後期(2024年9月～翌2月)
	ワークショップデザインⅢ		

■ 受講料：113,400円（検定料9,800円込み）

■ その他：講座修了者に「履修証明書」を交付します。

■ 申込方法：お問合せ→大学学務課で申込み→受講料支払い→受講開始

■ 申込期間：**2024年3月4日（月）から4月5日（金）まで**

周南市が受講料を補助します！（予定※）
※令和5年度予算が議会で可決された場合
周南市民、周南市で働く人を対象に
受講料に対し**5万円**を補助！

お問合せ先 周南公立大学地域共創センター TEL：0834-28-5566（平日 9:00～17:00）

大学と専門学校では状況が異なるため、すべてが参考になるとは限りませんが、一からプログラム導入に関して検討を進めるために、導入経緯や導入直後の状況、受講生の推移、運営上の課題などについてお話を伺うための訪問ヒアリング調査をお願いし、快くご承諾いただきました。

3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討（6）

周南公立大学へのヒヤリング調査（2024年10月31日）

学生支援部学務課 山口様

研究・地域・産学連携部地域・産学連携課 守田様

履修証明プログラム導入の経緯

- ・できるだけ教員に負担をかけたくないという観点から科目等履修生と同様に通常の授業を組み合わせてプログラムを形成
- ・安売りしたくないので、科目等履修生と同じ価格帯で設定
- ・初年度の無料期間は受講者が数名、令和4年は履修者0名、令和6年で2名プレゼンテーションを追加した令和6年はITが2名、プレゼンが1名
- ・周南市は市としてリカレント教育に力をいれているため5万円補助があるが周辺の自治体はないため、どうしても授業料が高くなる
- ・今年度から、周辺自治体をまわって補助金の創設を提案する

3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討（7）

LMSについて

- ・ネットマンのC-learnngシステムを使用
- ・事務局の使いやすさよりも、教員ができるだけ使いやすいものを選定
- ・基幹システムは電翔 アクティブアカデミー
- ・学生情報、教員情報、授業情報、成績情報を管理、証明書の発行まで
- ・マスタはアクティブアカデミーからインポート

基本的にはこちらでやりたいこと以下のとおりです。

- ・外部動画のリンク
- ・ワークの作成、自動採点
- ・取り組み状況管理、受講生管理

当該システムは、これらを一元的に実施可能であることがわかったため周南公立大学への導入時の担当者を紹介いただくことになりました。

3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討（8）

管理体制

- ・実質的に担当者一人でシステムを管理している。
- ・C-learnは、通常授業でも使用され、500名前後の履修者を管理する上で、利便性を発揮している

所感

履修証明プログラムは、これまで大学が中心と考えていましたが、大学でも導入は進んない状況であることがわかりました。その理由として学内的には、通常の授業にプラスアルファとなり、教員の負担が増えてしまうため導入に反発があることが挙げられます。

また、学外的にも知名度が大きく影響しています。履修証明プログラムって何？は受講生だけでなく、企業側にもあるようで、文科省のいう履歴書に記載をしたり、証明書を発行した場合でも、その効力に疑問が残ります。

今後本校で導入するためには、そうした広報も併せて検討する必要があると考えます。

3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討（9）

（2）履修証明プログラムの提案・開設準備

周南公立大学での実施状況を参考に、沖縄県内の専門学校で実施可能な手法を検討し、既存のプログラムの再編を行い、具体的な提案を経て学内での意思決定をしました。その後、外部への公開方法についても検討し、福祉業界以外の方々にも受講していただけるよう、一部科目の見直しを行うなど、開講に向けた準備を進めております。

具体的にはプログラムを次のような構成で再編することとしました。

ITデータリテラシー入門講座

ITリテラシーを中心とした基礎スキルの修得を目的

ロジカルシンキング講座

DXの根幹と位置付けている課題発見・解決能力の修得を目的

オプションプログラム

上記のメイン講座を受講した方のみが選択履修可能となるオプション講座

3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討（10）

ITデータリテラシー入門講座

プログラム名称（案）	カテゴリ	授業	所用時間
ITデータリテラシー入門講座	ビジョン構築	これから世界はどうなる？	3時間
ITデータリテラシー入門講座	ビジョン構築	介護・保育の現場はどうあるべきか？	3時間
ITデータリテラシー入門講座	ビジョン構築	これからのキャリアをどう考えるか？	3時間
ITデータリテラシー入門講座	ビジョン構築	目指すビジョン（理想像・未来像）は？	3時間
ITデータリテラシー入門講座	デジタルリテラシー	デジタル活用の利用シーンを知る	1.5時間
ITデータリテラシー入門講座	デジタルリテラシー	デジタルを構成する要素について知る	1.5時間
ITデータリテラシー入門講座	デジタルリテラシー	セキュリティを理解し正しく使う	3時間
ITデータリテラシー入門講座	デジタルリテラシー	ICT環境を正しく利用できる	3時間
ITデータリテラシー入門講座	デジタルリテラシー	DXを理解する	3時間
ITデータリテラシー入門講座	office活用①	Excel演習 I	3時間
ITデータリテラシー入門講座	office活用②	Excel演習 II	3時間
ITデータリテラシー入門講座	office活用③	Word演習 I	3時間

ITデータリテラシー入門講座	office活用④	Word演習 II	3時間
ITデータリテラシー入門講座	office活用⑤	PPT演習 I	3時間
ITデータリテラシー入門講座	office活用⑥	PPT演習 II	3時間
ITデータリテラシー入門講座	office活用⑦	Officeツールまとめ	3時間
ITデータリテラシー入門講座	office活用⑧	Officeツール活用	3時間
ITデータリテラシー入門講座	office活用⑨	O365 I /クラウドについて理解する	3時間
ITデータリテラシー入門講座	office活用⑩	O365 II /情報共有ツール (O365 (OneDrive,	3時間
ITデータリテラシー入門講座	office活用⑪	Forms, データ収集・加工 I	3時間
ITデータリテラシー入門講座	office活用⑫	Formss, データ分析 II	3時間
			60時間

汎用的な内容に組み換えを検討

3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討 (11)

ロジカルシンキング講座

プログラム名称 (案)	カテゴリ	授業	所用時間
ロジカルシンキング講座	課題解決	課題解決概要とプロセス	3時間
ロジカルシンキング講座	顧客中心主義	顧客中心主義概要	3時間
ロジカルシンキング講座	顧客中心主義	顧客とサービスの関係	3時間
ロジカルシンキング講座	論理的思考	論理的思考の概要	3時間
ロジカルシンキング講座	論理的思考	情報整理	3時間
ロジカルシンキング講座	論理的思考	情報整理演習 I	3時間
ロジカルシンキング講座	論理的思考	情報整理演習 II	3時間
ロジカルシンキング講座	論理的思考	課題の具体化	3時間
ロジカルシンキング講座	論理的思考	課題具体化演習 I	3時間
ロジカルシンキング講座	論理的思考	課題具体化演習 II	3時間
ロジカルシンキング講座	批判的思考	批判的思考概要	3時間
ロジカルシンキング講座	デザイン思考	デザイン思考概要	3時間
ロジカルシンキング講座	デザイン思考	デザイン思考演習	3時間

ロジカルシンキング講座	課題管理	課題管理概要	3時間
ロジカルシンキング講座	課題管理	課題管理演習	3時間
ロジカルシンキング講座	課題解決	問題発見フェーズ(情報収集:チャート編)	3時間
ロジカルシンキング講座	課題解決	問題発見フェーズ(情報収集:インタビュー編) I	3時間
ロジカルシンキング講座	課題解決	問題発見フェーズ(情報収集:インタビュー編) II	3時間
ロジカルシンキング講座	課題解決	問題特定フェーズ(テーマ明確化編)	3時間
ロジカルシンキング講座	課題解決	解決策策定フェーズ(アイデア発想編)	3時間
ロジカルシンキング講座	課題解決	提案フェーズ(プレゼンテーション編)	3時間
			63時間

3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討 (12)

オプションプログラム (案)

プレゼンテーション, デジタルコミュニケーション, プログラミング基礎

プログラム名称 (案)	カテゴリ	授業	所用時間
オプション① プレゼンテーション講座	コミュニケーション	コミュニケーション概要	3時間
オプション① プレゼンテーション講座	コミュニケーション	コミュニケーションの基礎スキル	3時間
オプション① プレゼンテーション講座	コミュニケーション	コミュニケーションの応用	3時間
オプション① プレゼンテーション講座	チームビルディング	チームビルディング概要	3時間
オプション① プレゼンテーション講座	チームビルディング	職場の3要素	3時間
オプション① プレゼンテーション講座	ファシリテーション	ファシリテーション概要 I	3時間
オプション① プレゼンテーション講座	ファシリテーション	ファシリテーション概要 II	3時間
オプション① プレゼンテーション講座	プレゼンテーション	プレゼンテーション概要 I	3時間
オプション① プレゼンテーション講座	プレゼンテーション	プレゼンテーション概要 II	3時間
オプション① プレゼンテーション講座	プレゼンテーション	プレゼンテーション概要 III	3時間
			30時間

オプション② デジタルコミュニケーション講座	デジタルコミュニケーション①	システム導入概要	3時間
オプション② デジタルコミュニケーション講座	デジタルコミュニケーション②	要件整理	3時間
オプション② デジタルコミュニケーション講座	デジタルコミュニケーション③	現状整理	3時間
オプション② デジタルコミュニケーション講座	デジタルコミュニケーション④	プロジェクトマネジメント	3時間
オプション② デジタルコミュニケーション講座	デジタルコミュニケーション⑤	組織内コミュニケーション (コミュニティオーガナイズ)	3時間
オプション② デジタルコミュニケーション講座	デジタルコミュニケーション⑥	運用検討 I	3時間
オプション② デジタルコミュニケーション講座	デジタルコミュニケーション⑦	運用検討 II	3時間
オプション② デジタルコミュニケーション講座	デジタルコミュニケーション⑧	演習 I	3時間
オプション② デジタルコミュニケーション講座	デジタルコミュニケーション⑨	演習 II	3時間
			27時間

オプション③ プログラミング基礎講座	プログラミング基礎	プログラミング概要 I	2時間
オプション③ プログラミング基礎講座	プログラミング基礎	プログラミング概要 II	2時間
			4時間

3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討 (13)

プラットフォーム (LMS) の検討

本事業で使用していたTeamsに関して、管理面だけでなく、学生アンケートからも使いにくさが指摘されていたため、他のLMSに関する情報収集を行い、変更を前提とした調査を開始いたしました。

機能面においては、本事業でのパイロットテストの結果とアンケートからの課題を解決するため、単に動画を配信したりワークを管理するだけでなく、管理面では、動画の視聴やワークの提出状況、ワークの内容の自動採点などをスムーズに行えること、受講者側からは操作が直感的にできることやポータルサイトなどで自身の進捗状況を確認しながら学習を進められることなど、各項目について点検を行いました。

なお、本校では通信制の学科を複数開講していることから、オンデマンド講座に加えてリアルタイム配信の講義が実施可能であることや、教務事務系の処理が可能であることなども要検討事項として加えられました。

EDIX関西など展示会での情報収集の結果、上記要件や費用面で合致したヨリソルを選定し、現在、導入に向けた調整を行っております。

学生及び一般向けの講座として、夏までに新環境にて開設できるよう、急ぎ準備を進めております。



ヨリソルとは

学校内のデータを見える化し
教育の質向上をご支援するスクールマネジメントシステム

お悩み01

教育システムやパソコン、手書きメモなど、複数の場所にデータが散在している



退学防止分析

成績・出席管理

情報公開ダッシュボード

ヨリソルで解決!

各種アンケート



「学校教育現場の見える化」

教師と学生、教育と業務をITで繋ぎ、教育データを活用して学びを深化させる

ティーチング・ポートフォリオ

進学先実習先管理

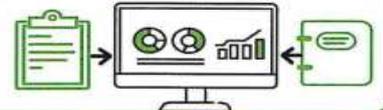
学習成果の可視化

LMS学習管理システム

教職員データ管理

お悩み02

学習成果やアンケートの見える化、分析を行っても教育活動のために活用できていない



LMS学習管理システム

小テスト・ドリル	授業アンケート・自動集計	課題提出・管理	出欠管理
チャット・掲示板	履修登録	授業コマ管理	設問バンク
e-ラーニング	メール・LINE配信	教材・資料配布	各種アンケートの実施

校務支援

学籍管理	出欠管理	成績管理	面談・指導履歴管理
時間割り作成	各種証明書発行	チャット・掲示板機能	進学先管理
安否確認	教職員情報管理	校納金管理	保護者連絡機能

3 プログラムの再編・履修証明プログラムの検討 (15)

まとめ

履修証明プログラムの開設は、当初の計画には含まれておりませんでした。受講生からのアンケート結果などを踏まえ、作成したプログラムの再編は必須の検討事項となりました。具体的には、受講生のアンケート結果から「講座の数が多い」「学習時間が確保できない」「講座の内容が難しい」といった意見が挙がっており、これらを踏まえ、履修プログラムの基準に則り、1講座当たり60時間を目安に、ITスキル系の講座とDXの本質を捉えた課題解決のためのロジカルシンキング系の講座を中心に2講座に再編することといたしました。

また、コミュニケーション系の講座やデジタルコミュニケーションの講座、プログラミング系の講座は、受講生にとって難易度が高いものであるため、それぞれ独立した講座として設定いたしました。さらに、当該講座の受講対象を広く外部に向け、業界を問わず受講していただけるようにし、介護と保育の将来像をまとめた「ビジョン構築」の4講座を再編集し、一般企業の受講者にも活用できる内容といたしました。

学内での公開開講の意思決定も済ませたため、選定されたプラットフォームに環境を移すことが事業終了後の作業として残っておりますが、本事業の成果物を活用し、介護や保育の福祉分野でのDX推進に貢献できるようPRするとともに、福祉以外の分野においても活用できるよう努めてまいります。

第3章 令和6年度 取組み内容詳細／打ち合わせ等記録

1 各種打合せ記録

- (1) 企画推進委員会及び専門学校分科会打合せ記録
- (2) 分野横断連絡調整会議
- (3) その他会議・打ち合わせ記録

2 出張記録

1 各種打合せ記録（1）

（1）企画推進委員会及び専門学校分科会打合せ記録

今年度、企画推進委員会及び専門学校分科会は開催せず、シラバス作成に向けて関係企業様との打ち合わせを中心に実施した。

（2）分野横断連絡調整会議

・第1回ヒアリング概要：2024年7月12日（金） 11:00～12:00

■参加者：ソーシャルワーク専門学校：長嶺、江川、上里

三菱総合研究所：菊田、文部科学省：大塩、事務局：渡辺(和)、渡辺(享)

・第2回ヒアリング概要：2024年11月28日（木） 10:30～11:30

■参加者：ソーシャルワーク専門学校：長嶺、江川、上里

文部科学省：大塩、齊藤、事務局：渡辺（和）、渡辺（享）、岩居

・【文科省DX人材養成】セミナー：2025年1月24日（金） 15:10～15:40

■参加者：ソーシャルワーク専門学校：長嶺、江川、上里

1 各種打合せ記録（2）

会議名	4/22、4/23 保育園訪問に際してのヒアリング事項検討
開催日時	2024年4月16日（火） 13:00～14:00
場所	Teams
出席者 (敬称略)	沖縄福祉保育専門学校：長嶺 江川 AKKODiS：玉川 馬場 三浦
議題	4/22、4/23 保育園訪問に際してのヒアリング事項検討
資料	視察に向けた考察.docx
会議名	シラバス検討会
開催日時	2024年5月22日（水） 10:00～11:00
場所	Zoom
出席者 (敬称略)	沖縄福祉保育専門学校：長嶺 江川 上里 無限：石川 木村 AKKODiS：玉川 三浦
議題	R6 報告動画制作 方針決め
資料	

1 各種打合せ記録（3）

会議名	授業動画作成について
開催日時	2024年5月23日（木） 15:00～16:00
場所	Zoom
出席者 （敬称略）	沖縄福祉保育専門学校：長嶺 江川 上里 山城 AKKODiS：玉川 馬場 三浦
議題	授業動画作成について
資料	

会議名	シラバス検討会
開催日時	2024年5月29日（水） 10:00～11:00
場所	Zoom
出席者 （敬称略）	沖縄福祉保育専門学校：江川 上里 AKKODiS：玉川 三浦
議題	R6 DX 事業における派遣人材の活用について
資料	

1 各種打合せ記録（4）

会議名	シラバス検討会
開催日時	2024年6月10日（月） 14:00～15:00
場所	Zoom
出席者 （敬称略）	沖縄福祉保育専門学校：江川 AKKODiS：馬場 玉川 三浦
議題	R6の作成物、6月14日の内容について
資料	6月14日セミナー企画 福祉現場の管理職のためのDX研修（テキスト）

会議名	シラバス検討会
開催日時	2024年8月5日（月） 11:00～12:30
場所	Teams
出席者 （敬称略）	沖縄福祉保育専門学校：江川 長嶺 上里 AKKODiS：玉川 馬場 三浦
議題	R6 DX 事業における 授業シラバス作成 / 派遣人材の活用について
資料	

1 各種打合せ記録（5）

会議名	シラバス検討会
開催日時	2024年8月26日（月） 13:00～14:00
場所	Teams
出席者 （敬称略）	沖縄福祉保育専門学校：江川 長嶺 上里 AKKODiS：玉川 原田 三浦
議題	R6 DX 事業における業務サポート / eラーニング受講状況について
資料	

会議名	シラバス検討会
開催日時	2024年8月29日（木） 11:00～12:00
場所	Teams
出席者 （敬称略、順 不同）	沖縄福祉保育専門学校：江川 長嶺 上里 沖縄女子短期大学：比嘉 AKKODiS：玉川 三浦
議題	授業動画に関する細かな確認
資料	

1 各種打合せ記録（6）

会議名	シラバス検討会
開催日時	2024年9月26日（木） 10:00～12:00
場所	Teams
出席者 （敬称略）	沖縄福祉保育専門学校：江川 上里 沖縄女子短期大学：比嘉 AKKODiS：玉川 原田 三浦
議題	授業動画に関する細かな確認
資料	

会議名	状況の整理と履修証明プログラム 開設に係る提案について
開催日時	2024年10月10日（木） 16:00～17:00
場所	Teams
出席者 （敬称略）	沖縄福祉保育専門学校：江川 AKKODiS：玉川 三浦
議題	状況の整理と履修証明プログラム開設に係る提案について
資料	

1 各種打合せ記録（7）

会議名	<周南公立大学への訪問> 履修証明プログラム & LMS について
開催日時	2024年11月7日（木） 15:00～16:00
場所	Teams
出席者 （敬称略）	沖縄福祉保育専門学校：江川 長嶺 上里 AKKODiS：玉川 三浦
議題	LMS についての近況、事務局の運営の流れ共有、視聴率を上げるための施策
資料	

会議名	シラバス検討会
開催日時	2025年1月20日（月） 11:00～12:00
場所	オンライン
出席者 （敬称略）	沖縄福祉保育専門学校：江川 長嶺 上里 AKKODiS：玉川 三浦
議題	2/9 対面集合型研修の開催キャンセルについて
資料	

2 出張記録 (1)

事業名	令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 介護・保育の現場で活躍するためのDX人材開発モデル事業	出張 -1
日時	令和6年6月24日(月) ~ 令和6年6月25日(火)	
出張者	江川 毅, 長嶺 大介, 上里香夏子	
出張先	石垣市	
訪問先	①ひばりの保育園 ②新栄町こども園	
①6月24日(月) 14:00~16:00【ひばりの保育園】 ひばりの保育園 管理室室長 東里様, AKKODiSコンサルティング 馬場様, 玉川様 大庭学園 長嶺, 上里, 江川 (1) ご挨拶, 担当者紹介 c (2) DXに関するヒヤリング		
②6月25日(火) 10:00~12:00【新栄町こども園】 新栄町こども園 園長 大島様, AKKODiSコンサルティング 馬場様, 玉川様 大庭学園 長嶺, 上里, 江川 (1) ご挨拶, 担当者紹介 c (2) DXに関するヒヤリング		

2 出張記録 (2)

事業名	令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 介護・保育の現場で活躍するためのDX人材開発モデル事業	出張 -2
日時	令和6年10月3日(木) ~ 令和6年10月4日(金)	
出張者	大城 了子, 東江 裕一, 古波津 陵, 仲里 直哉	
出張先	大阪府	
訪問先	インテック大阪	
目的・内容 【展示会 (EDIX関西) 参加】 10月3日 (11:30~17:00)、10月4日 (10:00~11:15) 現在行っている「DX人材養成講座」の効率化の為、EDIX関西へ参加を行った。 現行はTeamsを活用して実施しているが、下記のような課題があり改善できるシステム検討のため展示会の参加を行った。 ・インポート機能が無いので手作業で一つ一つ登録する必要がある ・公開した授業を非公開にできない ↳ 公開状態で編集をする必要があるかつ問題発生時は作り直しのオペレーションになる可能性がある ・命名規則などの事前の作りこみが運用も意識が必要 ・エクスポートに時間がかかる、情報量が多いとタイムアウトしてエクスポートできない ・エクスポートが授業の登録通りに行われないため、どの授業かわかる命名規則で無いといけない ・動画の視聴履歴がデフォルトでは取れず、見たのかどうかわからない ・Teams上で完結しない(動画はストリーム、課題はFormsなど)ためステータス把握が難しいもったいなくなったよ ・一括での入力・受講ステータス状況の柔軟な出力・動画視聴履歴・ワークの提出履歴の一元管理 以上の課題解決を元にシステムの視察を行った。特に下記項目にあげたシステムで現状課題解決が期待できると感じ委員会等に提案することとした。		

2 出張記録 (3)

事業名	令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 介護・保育の現場で活躍するためのDX人材開発モデル事業	出張 -3
日時	令和6年10月30日(水) ~ 令和6年10月31日(木)	
出張者	江川 毅, 長嶺 大介, 上里香夏子	
出張先	山口県	
訪問先	① 周南公立大学	
目的・内容	<p>DXプログラムの履修証明プログラムとしての運営に関するヒヤリング・意見交換</p> <p>10月31日(木) 9:30~12:00 周南公立大学 学生支援部学務課 山口様, 研究・地域・産学連携部地域・産学連携課 守田様 AKKODiSコンサルティング 玉川様, 三浦様 大庭学園 長嶺, 上里, 江川</p> <p>履修証明プログラムは、これまで大学が中心と思っていたが、意外と大学でも導入は進んでいない状況であることがわかった。その理由として学内的には、通常の授業プラスアルファとなると教員の負担が増えてしまい、導入に反発があることが挙げられる。</p> <p>学外的には、知名度が大きく影響している。履修証明プログラムって何? は、受講生だけでなく、企業側にもあるようで、文科省のいう履歴書に記載をしたり、証明書を発行しても、その効力に疑問が残る。</p> <p>今後本校で導入するためには、そうした広報も併せて検討する必要がある。</p>	

第4章 令和6年度のまとめと次年度への取組み

- 1 令和6年度のまとめ
- 2 次年度への取組み

1 令和6年度のまとめ（1）

本事業は、沖縄福祉保育専門学校において介護や保育を学んでいる学生に対し、「DX人材育成プログラム」を提供し、将来的に福祉現場でDXの推進者として活躍できる人材を輩出することを目的として開始されました。

プログラムの検討段階では、福祉現場の調査を実施しましたが、多くの施設でシステムやタブレット等が導入されているにもかかわらず、それらのツールがうまく活用されず、二度手間となっているケースが少なくないことがわかりました。

この背景には、ICTツールに対する苦手意識を持つ方が多いことが挙げられます。そのため、導入されたシステムを使う人と使わない人が分かれ、手作業が残ったり、予算の関係で情報入力用端末の数が不足して入力待ちが発生するなどの問題が生じていました。

こうした状況を解決するためには、単にICTツールを使いこなせる人材だけでなく、システムやツールの導入段階から現場の課題を把握し、それらを解決するための手段を考えられる人材が必要であると考えました。

一方で、プログラムの内容には、福祉現場の実状に合わせてofficeツールの使用方法を中心にするなど、ヒアリングの結果を反映させました。その上で、若干難易度が上がることを承知しつつも、他のDX講座ではあまり見られない課題発見や解決に関する講座を充実させ、真に現場で活躍できる人材の育成を目指しました。

1 令和6年度のまとめ（2）

ところが、パイロットテストに参加した学生からのフィードバックによると、講座の数が多すぎる、内容が難解であるといった意見が多数寄せられました。これにより、制作側の意図と受講者のニーズとの間にギャップが存在することが明らかになりました。もちろん、本科のカリキュラムの関係でオプションであるDX講座を受講するための時間を確保することが難しかったことも一因として考えられますが、学生がDXの必要性を認識しなければ受講が進まないという現実を痛感いたしました。

同様のことは現場においても見受けられます。ある施設では、本プログラムの一環として実施予定であった対面形式のDX研修に関する案内文が、「DX＝システムエンジニア」という固定観念のもとに関係ないと判断され、破棄されたという話がありました。このような事例からも、DXに関してはまだ言葉の定義や内容が十分に浸透していないことが分かります。

福祉業界のみならず、他の業種の中小企業においてもDXが進まない要因として、DXという言葉の意味が十分に理解されていないこと、そしてDX後の姿を具体的にイメージできないことが根本的な原因であると考えられます。そのため、次年度には学内外に講座を提供する前に、DXという言葉の意味とその必要性について十分に伝えるための活動が急務であると考えております。

2 次年度への取組み（1）

次年度以降、本プログラムを再編し、「履修証明プログラム」としての開講を目指します。基本方針として、「ITデータリテラシー入門講座」と「ロジカルシンキング講座」の2つの講座を主軸に、福祉業界に限らず幅広く履修希望者を募集する予定で準備を進めております。

各講座は60時間を目安に構成されており、1日1講座（3時間）を20日間で終了できる内容となっています。しかし、毎日受講することは難しいと考えられるため、週2日で約3か月の学習期間を見込んでおります。

また、プラットフォームとしては現在、株式会社プラスアルファ・コンサルティング社の提供する「ヨリソル」を主軸に検討を進めており、7月以降の開講を目指して準備を整えております。

在校生向けに講座を公開するだけでなく、外部向けの講座としての開設も進めております。しかし、周南公立大学の事例からも見られるように、自治体からの授業料補助等がない場合、履修者が集まりにくい点は同様の課題であり、特に規模の小さな施設や事業所では、業務時間内に研修時間を確保し、職員を送り出すことや研修費用を負担することは簡単ではないと考えられます。

そのため、DXという言葉の定義やDXがもたらす効果をわかりやすく伝えるなど、広報段階での周知方法に工夫を凝らし、まずは管理職の理解を得られるような案内文の作成を心掛けます。

さらに、本プログラムは別の角度からも再編を行い、離職者訓練プログラムとしても活用する予定であり、現在調整を進めております。

APPENDIX

- 1 AKKODiSコンサルティング株式会社
令和6年度報告書
専修学校による地域産業中核的人材養成事業
専修学校と業界団体等との連携によるDX人材養成プログラム
介護・保育の現場で活躍するためのDX人材開発モデル事業
～専修学校による地域産業中核的人材養成事業に関わるアドバイザリー業務～
- 2 AKKODiSコンサルティング株式会社
令和6年度報告書
専修学校による地域産業中核的人材養成事業
専修学校と業界団体等との連携によるDX人材養成プログラム
介護・保育の現場で活躍するためのDX人材開発モデル事業
～専修学校による地域産業中核的人材養成事業に関わる授業動画作成～
- 3 AKKODiSコンサルティング株式会社
令和6年度報告書
専修学校による地域産業中核的人材養成事業
専修学校と業界団体等との連携によるDX人材養成プログラム
介護・保育の現場で活躍するためのDX人材開発モデル事業
～専修学校による地域産業中核的人材養成事業に関わる業務サポート～
- 4 AKKODiSコンサルティング株式会社
令和6年度作成シラバス一覧

